

Y a m e
八女市内遺跡群 2 0

福岡県八女市柳瀬・酒井田所在遺跡の発掘調査報告書

八女市文化財調査報告書 第129集

2 0 2 1

八女市教育委員会

Y a m e
八女市内遺跡群 2 0

福岡県八女市柳瀬・酒井田所在遺跡の発掘調査報告書

八女市文化財調査報告書 第129集

2 0 2 1

八女市教育委員会

序

八女市の西南部において昭和50年代後半から始まった八女市南部地区圃場整備事業を発端として、福岡県教育委員会・八女市教育委員会で実施した発掘調査では、弥生時代から中世にかけての多くの集落跡等の発掘調査が実施され、多くの埋蔵文化財が発見されています。

今回の報告は、その八女南部第2地区圃場整備事業に伴い、平成5年度に行われた発掘調査のうち、八女市酒井田と柳瀬所在のアモメ遺跡2次4地点と長田遺跡の発掘調査に関し、調査で得られた成果を公表することを目的としています。

アモメ遺跡2次4地点の発掘調査では弥生時代中期から古代にかけての竪穴建物跡や溝跡等の集落跡が発見されました。長田遺跡の発掘調査では古墳時代以降の掘立柱建物跡等の集落跡の一部が発見されました。今後、周囲の調査成果を足し合わせることで、当時の集落についてより詳しく判明することが期待されます。

その他、八女市域で過去に実施された圃場整備事業では多くの遺跡の発掘調査がなされており、今後も順次、成果を発掘調査報告書として刊行する予定です。このたび発掘調査報告書を刊行するにあたり、本書が学術的資料として活用されるのはもちろんのこと、文化財の保護や理解普及の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査や報告書作成にあたり、ご協力いただきました地元の方々、並びにご指導・ご助言いただきました方々に心より感謝の意を申し上げます。

併せて、今後も八女市の埋蔵文化財行政にご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

令和3年3月31日

八女市教育委員会

教育長 橋本 吉史

例言

- ・本書は八女市が国・県に補助を受けて実施した、八女市南部第2地区県営園場整備事業に伴う発掘調査の報告書である。本報告では平成5年度に実施した、八女市酒井田所在のアモメ遺跡2次調査4地点と、柳瀬所在の長田遺跡第1次調査について報告する。
- ・本報告の発掘調査は八女市教育委員会が実施した。
- ・本書の遺構実測図で使用する方位は磁北を基準とする。
- ・本書で使用した遺構実測図は現地調査実施時に、発掘担当者の指揮のもと発掘調査参加者で作成した。なお、一部の図面で令和元・2年度の報告書作成時に、理解補助のため補助線等を加筆した箇所がある。
- ・本書掲載の遺物実測図は、平成14～15年度に岩戸山歴史資料館（当時）において整理作業員が作成したものを、令和2年度の本報告書作成時に再検討し、必要な箇所に加筆等修正を加えて作成した。また、一部の遺物で追加作図を行い掲載したものもある。
- ・遺構実測図および遺物実測図の製図は、令和2年度に八女市文化財整理室において整理作業員が実施した。
- ・本書掲載の写真のうち、遺構写真は現地調査実施時に発掘担当者が撮影し、遺物写真は甲斐郁が撮影した。
- ・本書の編集は八女市文化振興課職員の助言のもと、甲斐が行った。現地調査時の所見は概要報告を参照し、一部不明な点については調査担当者の教示を得て執筆した。
- ・本書執筆に際しては、福岡県教育委員会文化財保護課の方々のご指導・ご協力を得た。
- ・発掘調査時の現場図面・写真・製図等の記録類および出土遺物等は八女市教育委員会が保管している。

目次

本文目次

1. 調査の経過	1
(1) 調査に至る経緯と経過	1
(2) 調査体制	1
2. 遺跡の位置と環境	2
3. 調査の概要と成果	6
(1) アモメ遺跡2次4地点	6
①調査の概要	6
②調査の成果	6
③出土遺構と遺物	7
A：西側調査区（かんばいA地点）	7
B：東側調査区（かんばいB地点）	12
④アモメ遺跡2次4地点の総括	22

(2) 長田遺跡	24
①調査の概要	24
②調査の成果	24
③出土遺構と遺物	24
④長田遺跡の総括	27

挿図目次

第1図 アモメ遺跡2次4地点・長田遺跡位置図 (S = 1/1, 250, 000)
第2図 旧八女市域南西部主要遺跡分布図 (S = 1/25, 000)
第3図 アモメ遺跡2次4地点・長田遺跡周辺遺跡図 (S = 1/2, 500)
第4図 アモメ遺跡2次4地点西側調査区遺構配置図 (S = 1/200)
第5図 アモメ遺跡2次4地点西側調査区SB01出土遺物実測図 (S = 1/4)
第6図 アモメ遺跡2次4地点西側調査区SB02実測図 (S = 1/50)
第7図 アモメ遺跡2次4地点西側調査区SB02出土遺物実測図 (S = 1/4)
第8図 アモメ遺跡2次4地点西側調査区SK01出土遺物実測図 (S = 1/4)
第9図 アモメ遺跡2次4地点西側調査区SE01実測図 (S = 1/50)
第10図 アモメ遺跡2次4地点西側調査区SD01出土遺物実測図 (S = 1/4)
第11図 アモメ遺跡2次4地点西側調査区SP01出土遺物実測図 (S = 1/4)
第12図 アモメ遺跡2次4地点東側調査区遺構配置図 (S = 1/200)
第13図 アモメ遺跡2次4地点東側調査区SB03実測図 (S = 1/50)
第14図 アモメ遺跡2次4地点東側調査区SB03出土遺物実測図 (S = 1/4)
第15図 アモメ遺跡2次4地点東側調査区SK01出土遺物実測図 (S = 1/4)
第16図 アモメ遺跡2次4地点東側調査区SK02・03・04・05・06実測図 (S = 1/50)
第17図 アモメ遺跡2次4地点東側調査区SK03出土遺物実測図 (S = 1/4)
第18図 アモメ遺跡2次4地点東側調査区SD02・03・04・05・06・07・08実測図 (S = 1/50)
第19図 アモメ遺跡2次4地点東側調査区SD02出土遺物実測図 (S = 1/4)
第20図 アモメ遺跡2次4地点東側調査区SD03出土遺物実測図① (S = 1/4)
第21図 アモメ遺跡2次4地点東側調査区SD03出土遺物実測図② (S = 1/4)
第22図 アモメ遺跡2次4地点東側調査区SD05出土遺物実測図 (S = 1/4)
第23図 アモメ遺跡2次4地点東側調査区SD06出土遺物実測図 (S = 1/4)
第24図 アモメ遺跡2次4地点東側調査区SD07出土遺物実測図 (S = 1/4)
第25図 アモメ遺跡2次4地点東側調査区表面採集・出土位置不明遺物実測図 (S = 1/4)
第26図 アモメ遺跡2次4地点トレンチ出土遺物実測図 (S = 1/4)
第27図 長田遺跡遺構配置図 (S = 1/200)
第28図 長田遺跡1号掘立柱建物跡実測図 (S = 1/50)
第29図 長田遺跡SK01実測図 (S = 1/50)
第30図 長田遺跡SK02実測図 (S = 1/50)
第31図 長田遺跡SK02出土遺物実測図 (S = 1/4)
第32図 長田遺跡SK03実測図 (S = 1/50)

表目次

第 1 表 アモメ遺跡 2 次・長田遺跡出土遺物観察表

図版目次

- 図版 1 アモメ 2 次 4 地点 1
- 図版 2 アモメ 2 次 4 地点 2
- 図版 3 長田遺跡
- 図版 4 出土遺物 1
- 図版 5 出土遺物 2
- 図版 6 出土遺物 3
- 図版 7 出土遺物 4
- 図版 8 出土遺物 5
- 図版 9 出土遺物 6
- 図版 10 出土遺物 7
- 図版 11 出土遺物 8
- 図版 12 出土遺物 9
- 図版 13 出土遺物 10
- 図版 14 出土遺物 11
- 図版 15 出土遺物 12
- 図版 16 出土遺物 13
- 図版 17 出土遺物 14
- 図版 18 出土遺物 15
- 図版 19 出土遺物 16
- 図版 20 出土遺物 17
- 図版 21 出土遺物 18
- 図版 22 出土遺物 19
- 図版 23 出土遺物 20
- 図版 24 出土遺物 21
- 図版 25 出土遺物 22
- 図版 26 出土遺物 23
- 図版 27 出土遺物 24

1. 調査の経過 (第1図)

(1) 調査に至る経緯と経過

本報告のアモメ遺跡2次調査4地点および長田遺跡第1次調査は、現地調査担当者と報告者が異なる。そのため、調査時の状況が不明な点もある。ここでは、調査の経緯について概要報告(赤崎敏男編1994、以下、「概報」と記載)の内容を記載する。

平成5年度に八女市南部地区県営圃場整備事業は、八女南部第2地区分として八女市大字柳瀬地区と大字酒井田地区を中心に約12haの事業が計画された。計画に先立って平成4年11月に当該地の試掘調査を実施し、事業地内の埋蔵文化財の把握を行った。その後、圃場整備事業・かんがい排水路事業の計画が具体化してきたため、市・県教育委員会・土地改良区県筑後川水系農地開発事務所と協議を重ねながら、事業地内において掘削や削平を受ける部分について発掘調査を実施することになった。アモメ遺跡2次調査4地点と長田遺跡第1次調査は平成5年度に現地調査を行い、現地調査完了後に概報が刊行された。

令和元・2年度は、調査時の平面図・出土遺物・写真記録を基に整理作業を行い、報告書を作成した。調査時図面には土層記載が無い等の不備もあったが、可能な限り検討を加えて、結果を示した。また、出土遺物は可能な限り図化し掲載している。

【引用文献】

赤崎敏男編1994『八女市南部地区県営圃場整備事業地内埋蔵文化財調査概報5』八女市文化財調査報告書第34集 八女市教育委員会

(2) 調査体制

本報告に掲載する遺跡発掘調査の体制は以下の通りである。

【平成5年度】(現地調査時)

(調査主体)

八女市教育委員会	教育長	坂田 不二夫
教育部	部長	渡辺 勲
社会教育課	課長	山口 龍一
	課長補佐兼 文化財係長	中村 武紀
同	係員	赤崎 敏男
同	係員	大塚 恵治(調査担当)
同	嘱託	中川 寿賀子(調査担当)

【令和2年度】(本報告刊行時)

(事業主体)

八女市教育委員会	教育長	橋本 吉史
教育部	部長	原 信也
文化振興課	課長	久間 政幸
	課長補佐兼 文化係主任	深町 明夫(総括)
文化係	参事補佐兼 文化係長	高山 康博
同	係員	高口 愛(事務担当)
同	係員	檀 佳克
同	係員	甲斐 郁(報告担当)

2. 遺跡の位置と環境(第2図・第3図)

八女市は福岡県南部に位置する。平成 18 年に上陽町、平成 22 年に立花町・黒木町・星野村・矢部村と合併し、福岡県下 2 位の広大な面積を有する自治体となった。南は熊本県山鹿市と、東は大分県日田市と接する。八女市は北の耳納山地、東の釈迦岳山地、南の筑肥山地に囲まれ、矢部川水系の上流域から中流域に当たる。矢部川水系中流域に平野部が広がり、八女市西側では矢部川により、旧八女市域と旧立花町域が南北に分かれる。

今回報告する遺跡が立地するのは、旧八女市域の南西部で、南側に矢部川が流れ対岸は旧立花町域である。アモメ遺跡 2 次 4 地点は八女市柳瀬に、長田遺跡は八女市酒井田に所在する。調査地は川が南に大きくカーブする内側にあり、氾濫によって形成された自然堤防上に位置している。この自

然堤防上に現在の集落域が広がっており、矢部川の北側に柳瀬集落が隣接し、そこから北西に酒井田集落が存在する。調査地は柳瀬集落と酒井田集落との間に位置し、アモメ遺跡 2 次 4 地点は柳瀬集落の北西側、長田遺跡は酒井田集落の東側に位置する。

以下に、周辺遺跡を含めた両遺跡の調査地周辺の状況を述べる。

当該地域の周辺は過去の圃場整備事業に伴う発掘調査が実施され、多数の遺跡が発見されている。そのうちの、当該地域北西では、弥生時代前期から古墳時代前期にかけての集落跡が発見されている。弥生時代前期には宿町遺跡で環濠を有する集落跡が存在し(大塚 2016)、弥生時代中期には二反田遺跡・宮ノ前遺跡で多数の建物跡からなる集落(植 2016・植 2017)が、弥生時代後期から古墳時代前期には深田遺跡・京田遺跡で集落跡が発見されている(赤崎 2005)。

当該地域近隣の状況を確認すると、アモメ遺跡 2 次 4 地点の南西約 200 m の地点にアモメ遺跡 1 ～ 3 地点が位置し、弥生時代中期から古墳時代にかけての建物跡が見つかった(中川 2018・中川 2019)。北東へ約 80 m の松ノ本遺跡 B 地点では弥生時代中期を中心とする甕棺墓が発見されており(永田 2019)、東へ約 150 m の地点の茶ノ木本遺跡では、弥生時代後期の甕棺墓から鏡・銅剣・鉄戈・ガラス玉が出土している(赤崎 1994)。アモメ遺跡 2 次 4 地点と長田遺跡の間に位置する島田遺跡と松ノ本遺跡 A 地点では、古墳時代の集落跡が発見されている(永田 2019・永田 2020)。長田遺跡の北側に隣接する長田遺跡 2 次 1 地点では、古墳時代から中世にかけての集落跡が発見されている(赤崎 1995)。

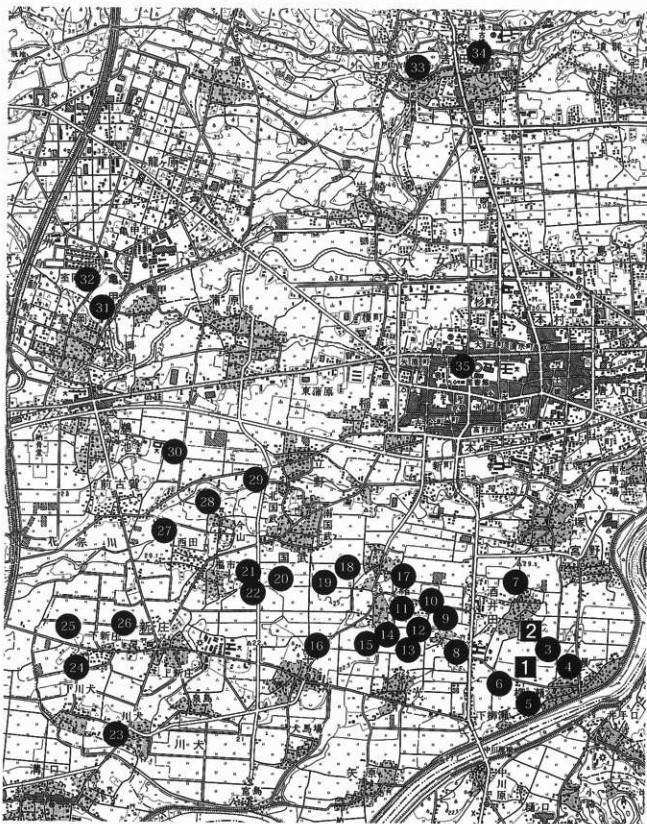
以上のことから、当該地域周辺では弥生時代から古墳時代にかけての時期に、継続して集落が見られる。また、一部では古墳時代から中世にかけての集落跡も見られる。



第1図 アモメ遺跡 2 次 4 地点・長田遺跡位置図
(S = 1/1, 250, 000)

【参考文献】

- 赤崎敏男編 1994『八女市南部地区県営圃場整備事業地内埋蔵文化財調査概報5』八女市文化財調査報告書第34集 八女市教育委員会
- 赤崎敏男他編 1995『八女市南部地区県営圃場整備事業地内埋蔵文化財調査概報6』八女市文化財調査報告書第40集 八女市教育委員会
- 赤崎敏男編 2005『八女市南部地区県営圃場整備事業地内埋蔵文化財調査報告書1』八女市文化財調査報告書第71集 八女市教育委員会
- 大塚恵治編 2016『八女市内遺跡群7』八女市文化財調査報告書第111集 八女市教育委員会
- 檀佳克編 2016『八女市内遺跡群9』八女市文化財調査報告書第113集 八女市教育委員会
- 檀佳克編 2017『八女市内遺跡群10』八女市文化財調査報告書第117集 八女市教育委員会
- 中川寿賀子編 2018『八女市内遺跡群15』八女市文化財調査報告書第123集 八女市教育委員会
- 中川寿賀子編 2019『八女市内遺跡群17』八女市文化財調査報告書第126集 八女市教育委員会
- 永田寧編 2019『八女市内遺跡群16』八女市文化財調査報告書第124集 八女市教育委員会
- 永田寧編 2020『八女市内遺跡群19』八女市文化財調査報告書第128集 八女市教育委員会



1. アモメ2次4地点	2. 長田遺跡	3. 松ノ本遺跡	4. 茶ノ木ノ本遺跡	5. アモメ遺跡
6. 国伏遺跡	7. 鳥井遺跡	8. 石町遺跡	9. 京田遺跡	10. 深田遺跡
11. 野田遺跡	12. 二反田遺跡	13. 宮ノ前遺跡	14. 水洗遺跡	15. 宿町遺跡
16. 新替遺跡	17. 池上遺跡	18. 袴田遺跡	19. 打越遺跡	20. 大坪遺跡2次
21. 大坪・前田遺跡	22. 中里遺跡	23. 川大古墳群	24. 新庄・六反田遺跡	25. ヒヤケ遺跡
26. 宮ノ后遺跡	27. 川原遺跡	28. 井手口遺跡	29. 篠原遺跡	30. 樋の口遺跡
31. 亀ノ甲遺跡	32. 西山ノ上遺跡	33. 岩戸山古墳	34. 兼馬古墳	35. 堀島城跡

第2図 旧八女市城南西部主要遺跡分布図 (S = 1/25, 000)

松ノ本遺跡2次調査

松ノ本遺跡E地点

松ノ本遺跡D地点

松ノ本遺跡A地点

松ノ本遺跡B地点

松ノ本遺跡C地点

アモメ遺跡2次4地点

島田遺跡

長田遺跡

長田遺跡2次調査1地点

茶ノ木ノ本遺跡

西側調査区

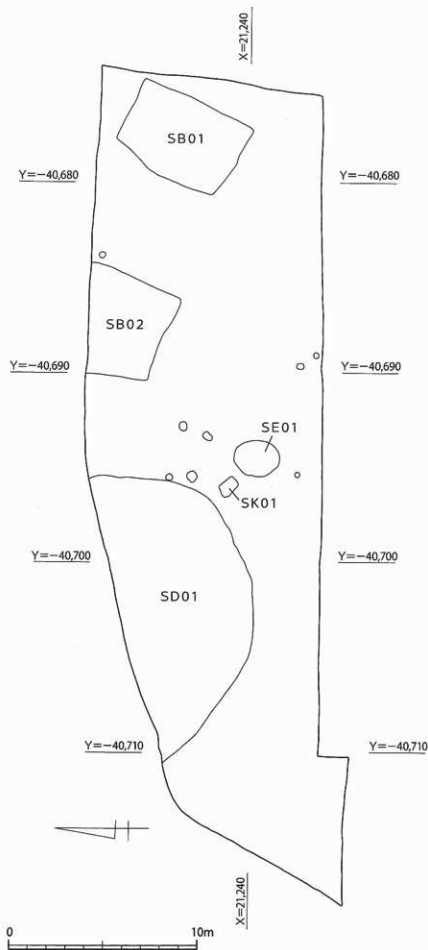
東側調査区

柳瀬

熊野神社

市

0 1:2500 200m



第4図 アモメ遺跡2次4地点西側調査区遺構配置図 (S = 1/200)

3. 調査の概要と成果

(1) アモメ遺跡2次4地点

①調査の概要

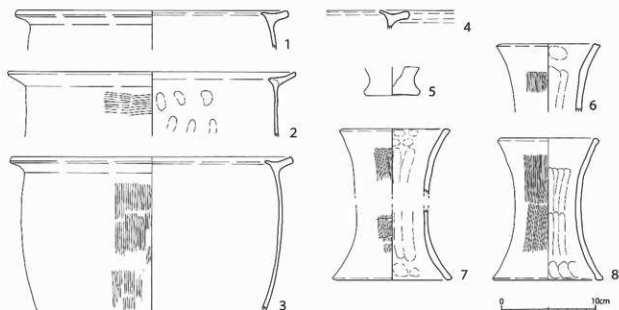
アモメ遺跡2次4地点は、八女市柳瀬字アモメ地内に位置する。概報によると、前年度に行った試掘調査の結果を踏まえて、排水路幅全域に調査区域を設定したとの記載があるが、試掘調査の詳細は不明である。調査面積は約1,200㎡で、平成5年9月27日から11月8日にかけて現地調査が行われた。

調査区は東西に分かれ、現地調査と基礎整理作業では、西側を「かんばいA地点」、東側を「かんばいB地点」と区別しているが、本報告では「かんばいA地点」を「西側調査区」、「かんばいB地点」を「東側調査区」として報告する。遺構番号は概ね、西側調査区から東側調査区へ通してつけられており、基本的には調査時の名称を用いるが、報告時の整理作業の結果、問題がある箇所については一部名称を変更している。

②調査の成果

発掘調査で発見された遺構は整理作業の結果、竪穴建物跡4軒、土坑7基、井戸跡1基、溝跡8条である。遺構と遺物の時期は主に弥生時代中期、弥生時代後期、古墳時代、古代に属すると思われる。

以下、各遺構と遺物について説明する。



第5図 アモメ遺跡2次4地点西側調査区SB01 出土遺物実測図 (S = 1/4)

③出土遺構と遺物

A：西側調査区（かんぱいA地点）：（第4図）

竪穴建物跡（SB）

竪穴建物跡は、現地調査時には3軒確認されている。そのうちの2軒が西側調査区に位置し、概報には「1・2号住居はその中心、または、中心部付近に炉を設けている。主柱穴は基本的に2本とされているが、若干その位置をずらしている。」と記載される。調査記録の検討の結果、西側調査区の建物跡のうち1軒が2軒の建物である可能性があり、竪穴建物跡は合わせて4軒になることが判明した。以下、検討を加えた内容も含めて、西側調査区の竪穴建物跡について報告する。

1号竪穴建物跡（SB01）：（第4図・第5図）

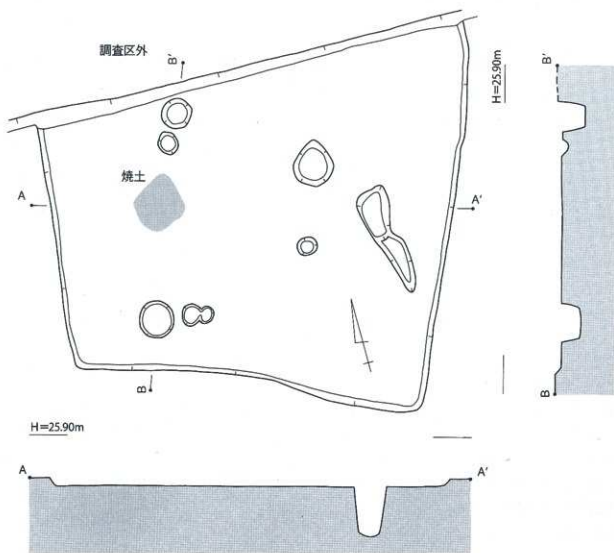
1号竪穴建物跡は、調査図面には建物範囲の記載のみしかなく、炉・柱穴等の建物の詳細は不明である。平面形は長方形で、長辺6.3m、短辺4.4mである。調査写真で確認すると、中心より東側に偏って柱穴と思われるピットが南北に並ぶ。炉跡等の火処は不明である。残存する遺構の深さは、写真より10cm程度と推定される。

第5図に出土遺物を示す。1～4は甕の口縁部で、1・3・4は口縁端部がやや角張り、2は口縁端部が丸い。1・3・4は形状・色調等の特徴が類似するため、同一個体の可能性がある。5は甕の底部である。6～8は器台であり、7と8は上端と下端の径がほぼ同じである。6は上端部片であり、胎土と色調から8と同一個体の可能性がある。

遺物は形状の特徴から、全て弥生時代中期に属すると思われる。出土遺物から、1号竪穴建物跡の時期も弥生時代中期に属する可能性が高い。

2号竪穴建物跡（SB02）：（第6図・第7図）

2号竪穴建物跡は、調査時は1軒として認識されている。調査図面を確認すると、2号竪穴建物跡の西側中央に炉跡と思われる焼土があり、その南北に柱穴と思われるピットがある。しかし、炉と主柱穴の位置が西側に偏っており、南壁中央付近に屈曲する箇所が認識できる。以上のことから、2号竪穴建物跡は西側と東側の2軒の建物である可能性があり、それぞれ「2号西側建物跡」「2

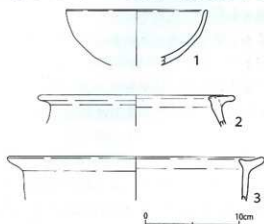


第6図 アモメ遺跡2次4地点西側調査区SB02 実測図 (S = 1/50)



号東側建物跡」として報告する。2号西側建物跡と2号東側建物跡は土層の記録がないため、先後関係は不明である。炉の位置から推定すると、2号西側建物跡は短辺約2.5m、長辺3m前後である。2号東側建物は詳細な寸法は不明である。残存する遺構の深さはどちらも約10cmである。

第7図に出土遺物を示す。1は鉢である。2・3は甕の口縁部である。2は口縁部の傾きが水平に近く、3は口縁部が短く立ち上がる。遺物の時期は1が4～6世紀代と思われ、2・3が弥生時代中期に属する。2号竪穴建物跡は、2軒を1軒と認識して調査されている可能性があり、遺物も2時期のものが確認される。出土遺物から、2号西側建物跡と2号東側建物跡の時期は、それぞれ弥生時代中期から6世紀代にかけての時期に属すると推測される。

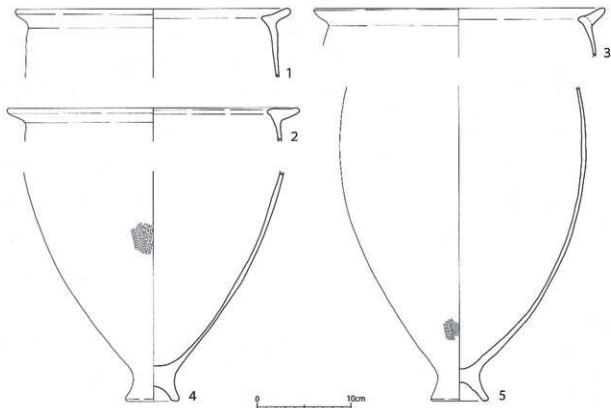


第7図 アモメ遺跡2次4地点西側調査区SB02 出土遺物実測図 (S = 1/4)

土坑 (SK)

1号土坑 (SK01) : (第4図・第8図)

1号土坑は調査図面では、土坑の範囲のみしか記載が

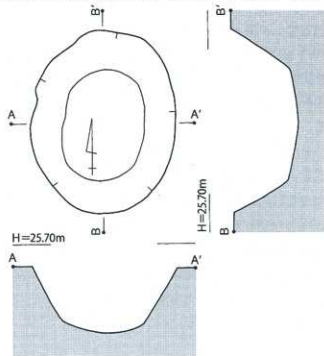


第8図 アモメ遺跡2次4地点西側調査区SK01出土遺物実測図 (S = 1/4)

ない。平面形は長方形に近い楕円形であり、長さ約1m、幅約0.7mである。写真より遺構の深さは50cm程度と推定される。調査写真では、土坑の底に2個体分の甕の底部が並んでおり、その上に口縁部の破片が重なっている状況が分かる。この状況は概報の「甕が2個体分並列した状態で出土した。甕棺墓ではないが、明らかに人為的に埋置されたようである。」と記載される土坑と特徴が一致し、この記載は1号土坑を示しているものと思われる。完形に近い土器が出土しているが、意図的な埋置か廃棄かは不明としておく。

第8図に出土遺物を示す。1～3は甕の口縁部で、口縁端部はいずれも丸く、断面形状は「く」の字に近く、内側への突出は鋤先口縁の名残を残す。4・5は甕の胴下半部で、脚台を有する。胎土と色調から、1と4、3と5の口縁部と胴下半部が同一個体である可能性が高く、写真で確認できる甕に相当すると思われる。遺物の時期は弥生時代中期末である。

遺物が土坑の底面から出土している状況から、1号土坑の時期も弥生時代中期末に属する可能性が高い。

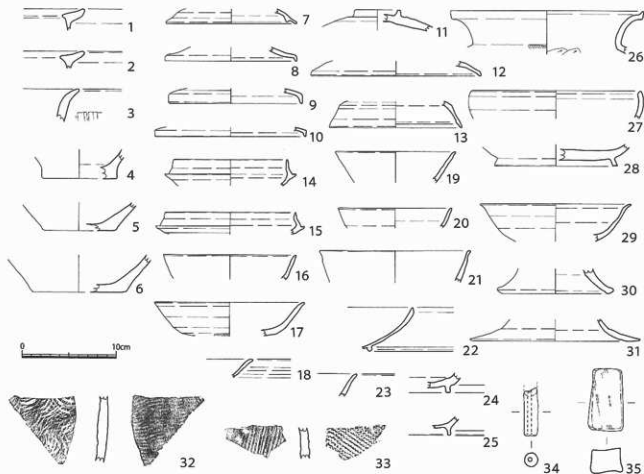


第9図 アモメ遺跡2次4地点西側調査区SE01実測図 (S=1/50)

井戸跡 (SE)

1号井戸跡 (SE01) : (第9図)

1号井戸跡は平面形が楕円形であり、長辺2.4m、短辺1.9m、残存する深さは約90cm



第10図 アモメ遺跡2次4地点西側調査区SD01出土遺物実測図 (S = 1/4)

である。調査写真では、遺構の底面に円礫が露出している状況が分かる。記録が残されていないため詳細な土層の状況は不明であるが、円礫が入るような地下水が流れやすい土層まで地面を掘り抜いて井戸として使用した可能性がある。

概報に、「甕等の小破片が数点出土（中略）弥生時代後期と思われる」とあるが、出土遺物は確認できなかった。1号井戸跡の時期は不明であるが、弥生時代後期前後の可能性がある。

溝跡 (SD)

1号溝跡 (SD01) : (第4図・第10図)

1号溝跡は、調査区の北西に位置し、調査時に発見されたのはカーブの外側部分であり南側には延びない。北側は調査区外のため詳細な寸法は不明であるが、残存する深さは約50cmである。概報に「河川の氾濫原と思われ」「一定の短い期間河川として存在していたものの、ある時期、一気に埋没してしまったものと思われる」と記載がある。溝の形状や埋没状況を検証することができず、明確な根拠を示すことはできないが、1号溝は自然流路の可能性がある。

第10図に出土遺物を示す。1～3は甕の口縁部、4は甕の底部である。5・6は壺の底部である。7～13は坏蓋で、14～25は坏である。7・9・10・14～16・20・21・23・24は須恵器であり、8・12・13・19は須恵器の形状で焼成は軟質、11・25は焼成が硬質で赤色に焼けたもの、17・22は焼成が硬質で赤色であるが形態は土師器、18は土師器である。22・24・25は高台付坏で、24の内面には車輪文の当て具痕がある。26は土師器壺であり、口縁端部が垂直に立ち上がる。27は須恵器の坏もしくは鉢の口縁部で、端部が内湾する。28は高台付坏もしくは瓶の底部であると思われる。29は須恵器高坏の口縁端部がやや外反する坏部で、焼成時の被熱の影響か外面の一部

が赤く焼けている。30は外面に自然釉がかかる脚部であり、須恵器高坏の脚部であると思われる。31は土師器高坏の脚部である。32・33は須恵器甕と思われる胴部片である。34は土錘である。35は砥石で、4面ともに凹みがあるが、使用による摩耗でくぼむのは上面と下面である。遺物の時期は1・2・4～6が弥生時代中期、3・26・29は6世紀代、14・15は6世紀～7世紀初頭、7・13は7世紀代、8～12・16～25・27～28、30、33は8世紀代であると思われる。

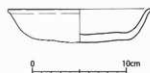
1号溝跡は土層の記録がないため遺物の出土状況が不明であるが、8世紀代の遺物が多数であることから、1号溝跡の時期は8世紀代前後の可能性が高い。

ビット (SP)

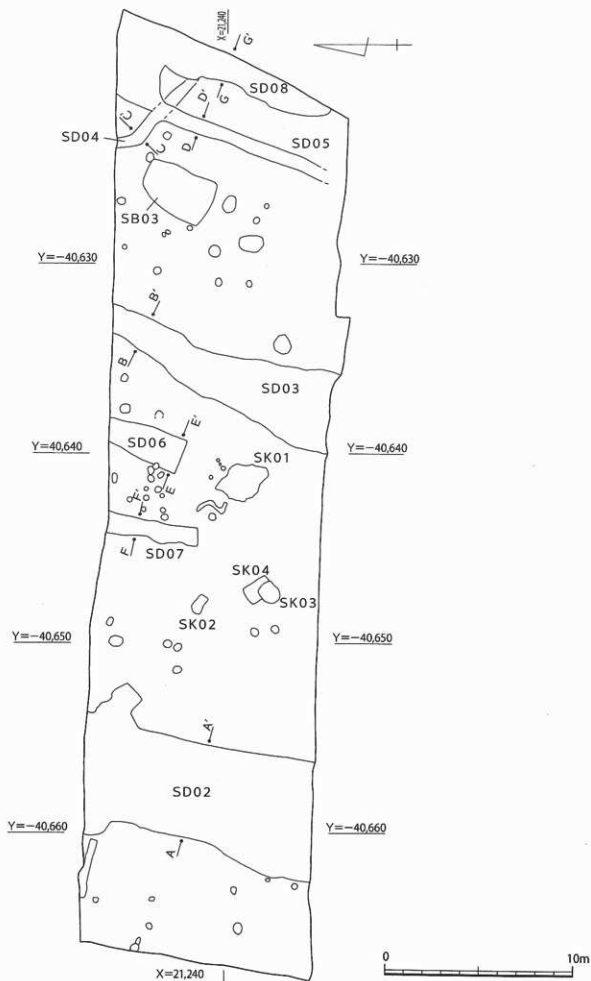
1号ビット (SP01) : (第11図)

1号ビットは位置の記録がなく、調査図面や写真からもビットの位置は特定できないが、1号ビットから出土したとされる遺物が存在する。以下に1号ビット出土遺物の説明をする。

土師器の坏であり、底部はヘラ切りがなされる。口縁端部がやや外反する。時期は8世紀代であると思われる。



第11図 アモメ遺跡2次4地点西側調査区 SP01 出土遺物実測図 (S = 1/4)



第12図 アモメ遺跡2次4地点東側調査区遺構配置図 (S = 1/200)

B：東側調査区（かんばいB地点）：

（第12図）

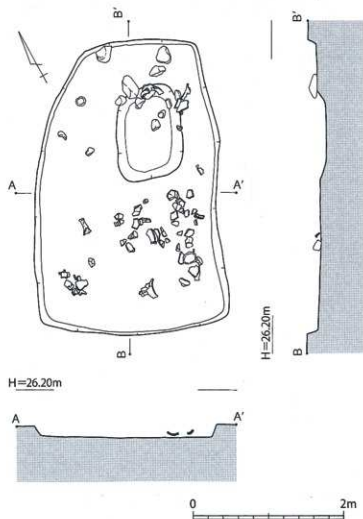
竪穴建物跡（SB）

3号竪穴建物跡（SB03）：（第13図・第14図）

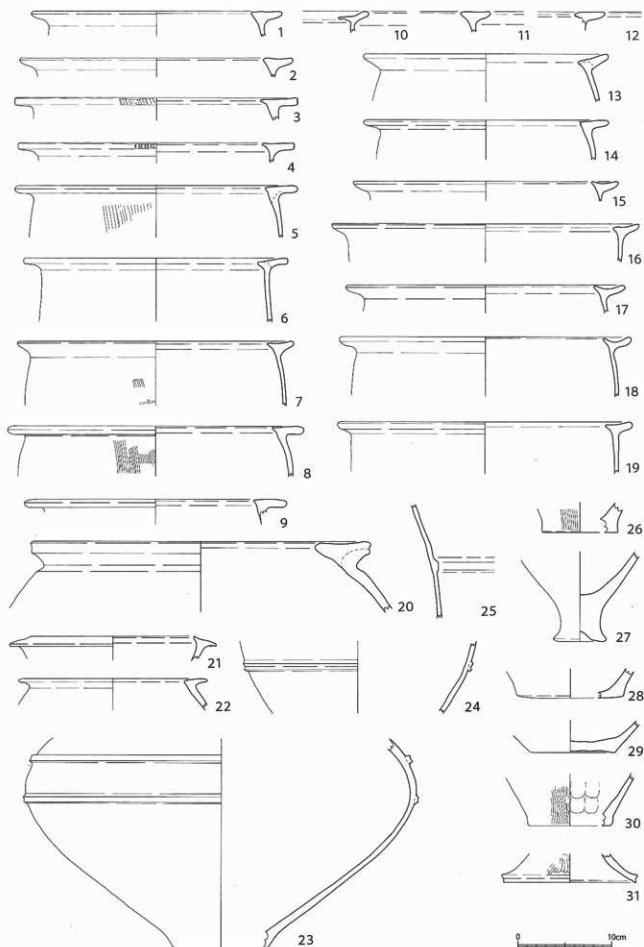
3号竪穴建物跡は概報に記載される「検出した3軒」の「竪穴住居」のうちの1軒である。平面形は長方形に近い形状で北西隅が丸くなっている。長辺約3.6m、短辺約2.4mで、残存する深さは約15cmである。床面の北側に土坑状の部分があり、土坑等の別遺構の可能性もある。炉や柱穴の痕跡は記録されていない。西側調査区の竪穴建物跡と比べて、床面に多数の土器が出土し、複数の円礫がある状況が記録されている。柱穴等が明確でないため建物以外の遺構であった可能性が残るが、本報告では竪穴建物跡として報告する。

第14図に出土遺物を示す。20は資料を再整理した結果、3号溝跡の出土遺物として保管されていた破片と接合した。これは、遺物の整理事業時に混乱が生じた恐れがあり、離れた遺構の遺物同士が接合したか、3号竪穴建物跡出土の土器（SB03）を3号溝跡出土土器（SD03）として取り上げてしまっているかは不明である。1～20は壺の口縁部である。1と2同士、17と18同士は同一個体の可能性がある。3・4は口縁端部先端に刻み目を有する。1～5、8・9・11・12・14は口縁部の傾きがほぼ水平であり、6・7・10・19は口縁部がやや傾く。10・13・15・17・18は口縁部が内側に突出しており、15・17・18は口縁部内側の突出が上を向く。20は器壁が厚く大型である。胎土に片岩の薄片が含まれる。21～25は壺である。21・22は壺の口縁部である。21は外傾する。23は壺の胴下半部である。胴部は丸く膨らみ、底部に向かうにつれて径が小さくなる。胴部に中央がくぼむ突帯が2条めぐる。胎土に片岩の薄片が多数含まれ、胎土の特徴・色調から3号土坑出土土器（第17図4）と同一個体の可能性が高い。24・25は突帯を有する壺の胴部片である。24は突帯の中央がくぼみ、25は突帯が扁平である。26・27・30は壺の底部で、28・29は壺の底部である。31は高坏の脚部である。20が床面北側の土坑部分東隅、13と27が床面中央付近、23が床面中央の南東の位置から出土したものである。

遺物の形状の特徴から、時期は弥生時代中期のものがほとんどと思われる。このことから、3号竪穴建物跡の時期は弥生時代中期前後の可能性が高い。



第13図 アモメ遺跡2次4地点東側調査区SB03実測図
(S=1/50)

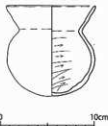


第14図 アモメ遺跡2次4地点東側調査区SB03出土遺物実測図 (S = 1/4)

土坑 (SK)

1号土坑の位置と出土遺物について不明な点があったため、調査図面、出土遺物、概報を確認し、対応関係を整理した内容を記載する。

東側調査区図面では、土坑に「SK02」から「SK06」の番号があり、「SK01」は欠番になっている。また、「SX01」という遺構が存在する。東側調査区出土遺物には、「SX01」と「SK01」の両者が存在し、「SK01」出土土器に小型丸底土器がある。遺構の形状は以下の1号土坑の報告で述べるが、概報の「焼土坑」の説明は調査図面の「SX01」の形状が最も当てはまる。概報に「焼土坑」は「土坑北側からは土師器の小型丸底壺が（中略）横たわる状態で出土した」との記載があるため、小型丸底土器は「焼土坑」出土遺物である可能性が高い。以上の状況を整理した結果、調査図面の「SX01」が概報の「焼土坑」である可能性が高く、その「焼土坑」出土の小型丸底土器が「SK01」出土遺物とされていることから、「焼土坑」「SX01」「SK01」は同一の遺構を示す可能性が高いと判断した。本報告では「焼土坑」および「SX01」を「SK01」として報告する。



第15図 アモメ遺跡
2次4地点東側調査区
SK01 出土遺物実測図
(S=1/4)

1号土坑 (SK01) : (第12図・第15図)

1号土坑は、概報には「ややひし形に近い形状をもつ土坑の北側に、蛇行した細い溝が続く」、「焼土または、黒色炭を多量に含んでおり、土坑内からは赤褐色の焼けた土壁が崩れ落ちた状態で出土し、」とある。平面形はひし形を呈し、長さ約3m、幅約2mである。調査図面では周囲とのレベル差がなくほぼ平坦となっているが、調査写真を確認すると、30cm程度掘削したところで焼土の塊が出土している状況が分かる。焼土と炭が多量に出土したことから、付近で火を使用した可能性はあるが、土坑の性格は不明である。

出土遺物を第15図に示す。ほぼ完形で残存する壺形の小型丸底土器である。胴部最大径より口径が小さく、体部高が口縁部高の約2倍である。土器の時期は4世紀中頃～5世紀中頃であると思われる。「SK01」「SX01」の他の遺物は小片であるが、弥生時代のもと思われる甕の口縁部小破片がある。これらの遺物がすべて1号土坑から出土したものであるとすると、口縁部小破片は混入で、ほぼ完形で出土した小型丸底土器が遺構に伴うものである可能性が高い。

1号土坑の時期を判断するのは困難であるが、出土遺物から4世紀中頃～5世紀中頃の可能性がある。

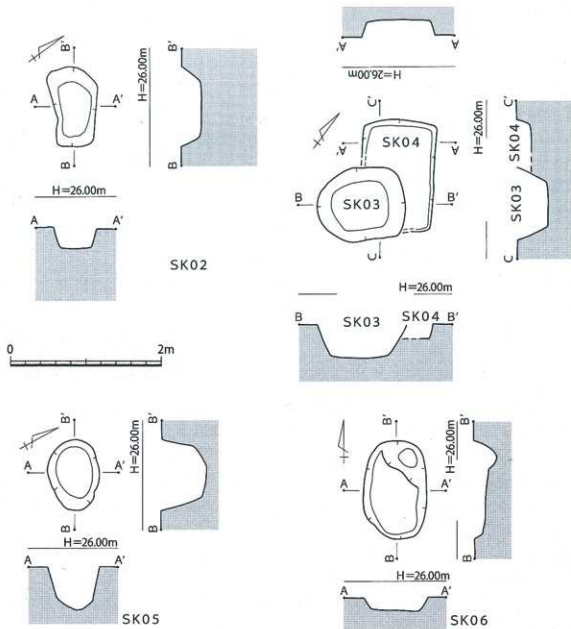
2号土坑 (SK02) : (第16図)

2号土坑は、平面形が長方形に近い楕円形である。長さ約1m、幅約0.6m、残存する深さは約30cmである。土坑の性格は不明である。出土遺物は無く、時期は不明である。

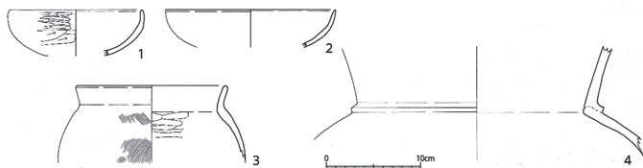
3号土坑 (SK03) : (第16図・第17図)

3号土坑は、平面形は角張った円形で、長さ約1m、幅約1m、残存する深さは約40cmである。図面では4号土坑を切る。3号土坑は廃棄土坑である可能性がある。

第17図に出土遺物を示す。4は、3号竪穴建物跡から出土した壺の底部(第14図23)と胎土・色調が非常に似ており、同一個体である可能性が高く、3号竪穴建物跡出土遺物の可能性が残るが、3号土坑出土遺物として報告する。1・2は坏、3は甕である。4は壺の頸部から胴上半部である。



第16図 アモメ遺跡2次4地点東側調査区 SK02・03・04・05・06 実測図 (S = 1/50)



第17図 アモメ遺跡2次4地点東側調査区 SK03 出土遺物実測図 (S = 1/4)

胎土に片岩の薄片を多く含み、3号竪穴建物跡から出土した破片と接合する。

遺物の時期はその特徴から、1～3が5世紀代で、4は弥生時代中期であると思われる。5世紀代の遺物が多数であることから、3号土坑跡の時期は5世紀代と思われる。

4号土坑 (SK04) : (第16図)

4号土坑は、平面形は長方形で、長さ約1.4m、幅約1m、残存する深さは約20cmの土坑である。図面では3号土坑に切られる。土坑の性格は不明である。

出土遺物は細片のみで図示できなかったが、3号土坑との先後関係が調査時の判断通りであれば、4号土坑の時期は5世紀代より以前の可能性がある。

5号土坑 (SK05) : (第16図)

5号土坑は長さ約0.9m、幅約0.7m、残存する深さは約60cmで、平面形は楕円形を呈する。土坑の性格は不明である。出土遺物は無く、時期は不明である。

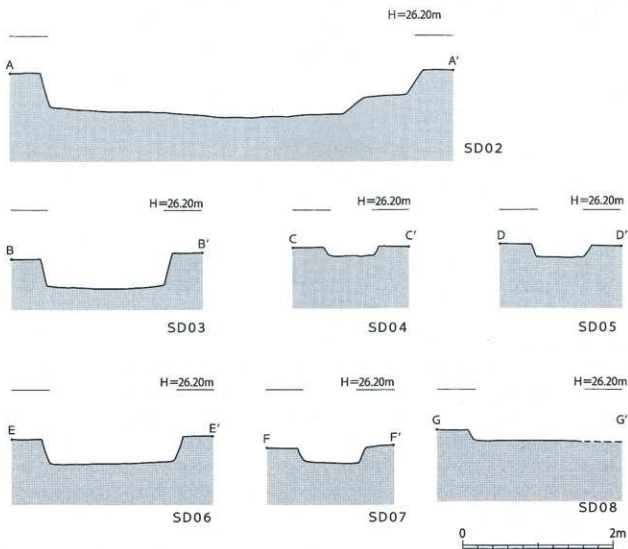
6号土坑 (SK06) : (第16図)

6号土坑は長さ約1.2m、幅約0.8m、残存する深さは約20cmで、平面形は楕円形である。土坑内の北側に残存する深さが約30cmのビット状の部分があるが、同時期に掘られたかどうかは判断ができない。土坑の性格は不明である。出土遺物は無く、時期は不明である。

溝跡 (SD02～08) : (第12図・18図)

東側調査区では、2号～8号溝跡の7条の溝跡が発見された。ほとんどの溝跡が南北方向に延びる。2号溝跡は東側調査区内で最大の幅を有し、長さ12.8m以上、最大幅約6.3m、残存する深さは約70cmである。2号溝跡が溝か自然流路かは不明である。3号溝跡は北から南へ幅広くなることから、自然流路の可能性がある。3号溝跡の長さは12.5m以上、最大幅約4.3m、残存する深さは約50cmである。4号溝跡は北西から南東へ斜めに延び、5号溝跡と8号溝跡にぶつかるが、切り合い関係は不明である。4号溝跡は流れの向きから、人為的な溝である可能性が高い。4号溝跡の長さは5.4m以上、幅約0.7m、残存する深さは約15cmである。5号溝跡と8号溝跡は調査図面では、合流した1条の溝跡が途中からそれぞれに分岐しているが、切り合い関係は不明である。5号溝跡は幅が一定であることから、人為的な溝である可能性が高い。5号溝跡は長さ約8.8m以上、幅約0.7m、残存する深さは約20cmである。5号溝跡と4号・8号溝跡は隣接し、先後関係は不明であるが、4号・8号溝跡から弥生時代の土器片が出土していることから、5号溝跡の時期は弥生時代以降と思われる。6号溝跡と7号溝跡は、調査区の北側から南側へ延びる途中で途切れていることから、人為的な溝である可能性が高い。6号溝跡は長さ約4.1m以上、幅約1.8m、残存する深さは約40cmである。7号溝跡は長さ約4.8m以上、幅約1m、残存する深さは約40cmである。8号溝跡は長さ約12.2m以上、残存する深さは約15cmであり、東側は調査区外のため幅は不明である。8号溝跡が溝か自然流路かは不明である。

溝跡から出土した遺物は概ねによると「総じて少量であったが3号溝においては、下層部より丹塗り土器等の祭祀色の強い土器が多数出土し」、「北側上層において、土師器の祭祀土器が多く出土した。」とあり、付近で祭祀行為があったことを想定している。しかし、調査図面には3号溝跡の北端に「土器だまり」と書かれているのみであり、遺物は取り上げ時に出土層位の区別がなされ



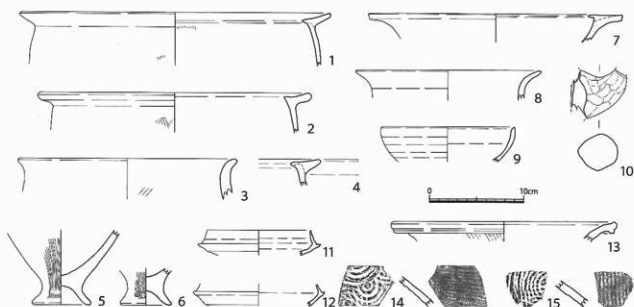
第 18 図 アモメ遺跡 2 次 4 地点東側調査区 SD02・03・04・05・06・07・08 実測図 (S = 1/50)

ていないため上層・下層の分別ができない。以上のことから、3号溝跡の北端から集中して土器が出土したと思われるが、遺物の出土層位は判断できない。

以下に各溝跡の出土遺物について記述する。

2号溝跡出土遺物 (第 19 図)

1～4は甕の口縁部である。5・6は甕の底部である。7は高環の環部である。8は甕の口縁部で、端部が外反する。9・11・12は環の口縁部である。9は土師器環で内外面に回転ナデが施される。11は須恵器の形状で焼成は軟質、12は須恵器の形状で焼成が硬質だが赤色である。10は甕の把手である。13は須恵器甕の口縁部である。口縁端部に1条の沈線が入り、外面に斜線文が入る。14・15は須恵器甕の胴部片であると思われる。1・2、4～7の時期は弥生時代中期、3、8～15の時期は6世紀～7世紀初頭であると思われる。出土遺物と土層の関係が不明であるので、2号溝跡の時期を断定するのは困難であるが、7世紀初頭前後と思われる。



第19図 アモメ遺跡2次4地点東側調査区SD02出土遺物実測図 (S = 1/4)

3号溝跡出土遺物 (第20図・第21図)

第20図1～18は甕である。8は外面と口縁部内面に丹塗りを施す。9は胴部の一部を欠く。口縁部がやや外側に垂れ下がり、口縁部先端に面を有する。断面形状がM字状の突帯が胴部上半部に巡り、底部は平底である。外面に丹塗りを施す。19・21は壺である。19は胴部の一部を欠き、底部は平底である。21は胴部片で、中央がくぼむ突帯を有する。20は器台である。22は高坏坏部である。23は甕もしくは高坏の口縁部である。24～26は壺もしくは甕の底部で、全て平底である。27～33は甕の脚台部分である。34は器台である。35は高坏脚部である。36は支脚である。時期は1～6、8～22、24・25、27～36が弥生時代中期、7・23・26が弥生時代後期と思われる。

第21図1～4は甕である。5～8は壺である。3・5・6は最大径が胴下半部に、7は最大径が胴上半部にくる。8は球形の胴部片である。9～13は脚付の鉢である。14・15は坏である。16～23は鉢である。24は須恵器の坏蓋である。25は湾曲する形状から把手であると思われる。中央部分の断面形は円形で、両端部は押しつぶされ楕円形になっている。26は土製の匙である。時期は1～24が4～6世紀代、26が弥生時代中期～後期に属すると思われる。25は時期不明である。

土層の堆積状況の記録が無く出土遺物との関係が不明であるが、概報の記述の通り上層と下層に分かれるのであれば、3号溝跡の時期は弥生時代後期以降と6世紀代以降の2時期の可能性がある。

4号溝跡出土遺物

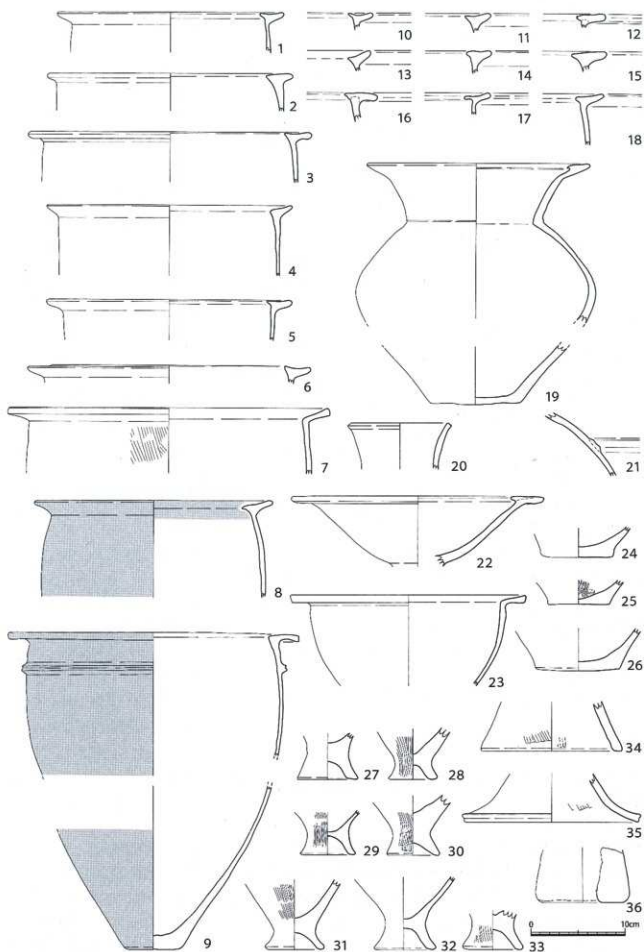
図化可能な遺物は無く、弥生時代の甕と思われる破片があるのみであることから、時期は弥生時代以降と思われる。

5号溝跡出土遺物 (第22図)

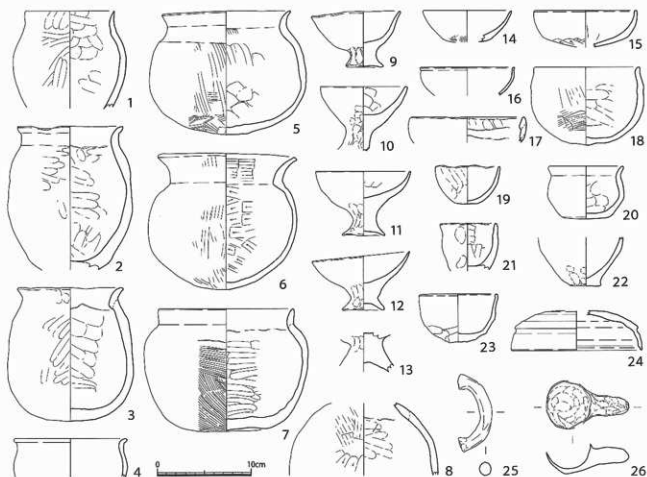
上端がくぼむように小さく欠けていることから、石鍾の可能性はある。時期は不明である。この遺物から遺構の時期は特定できないが、周囲の遺構の時期から5号溝跡の時期は弥生時代以降であると思われる。



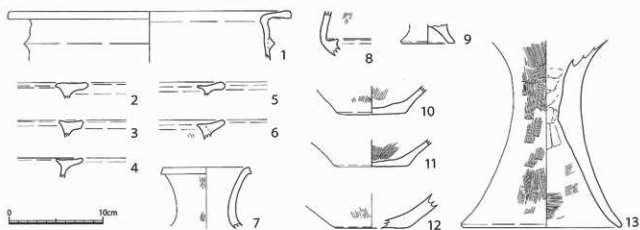
第22図 アモメ遺跡2次4地点東側調査区SD05出土遺物実測図 (S=1/4)



第20図 アモメ遺跡2次4地点東側調査区SD03 出土遺物実測図① (S = 1/4)



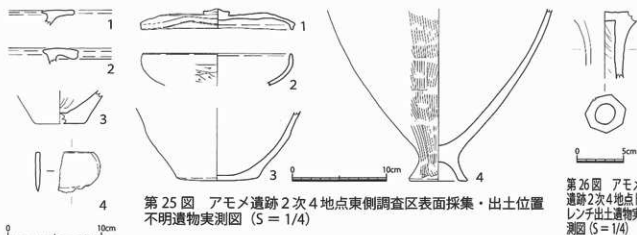
第21図 アモメ遺跡2次4地点東側調査区SD03出土遺物実測図② (S = 1/4)



第23図 アモメ遺跡2次4地点東側調査区SD06出土遺物実測図 (S = 1/4)

6号溝跡出土遺物 (第23図)

1～6は甕の口縁部である。1は断面が三角形の突帯を有す。2～6は小片である。7は壺である。8は壺の頸部であると思われる。胴部と頸部の境に突帯を有する。9は甕の底部である。10～12は壺の底部であると思われる、すべて平底である。13は器台である。上端部に被熱痕跡があり、上端部に比べて下端部の径が大きい。遺物の時期は2～6が弥生時代中期、7が弥生時代後期、1・10～13は弥生時代中期～後期であると思われる。このことから、6号溝跡の時期は弥生時代後期以降の可能性はある。



第25図 アモメ遺跡2次4地点東側調査区表面採集・出土位置不明遺物実測図 (S = 1/4)

第24図 アモメ遺跡2次4地点東側調査区SD07出土遺物実測図 (S = 1/4)

7号溝跡出土遺物 (第24図)

1・2は甕の口縁部で、1は傾きが水平に近く、2は口縁端部が垂れ下がる。3は甕の底部で、平底ある。4は石包丁で、刃部の一部が割れて欠損する。遺物の時期は弥生時代中期であり、7号溝跡の時期は弥生時代中期以降の可能性はある。

8号溝跡出土遺物

図化可能な遺物は無く、弥生時代の甕と思われる口縁部小片がある。このことから、8号溝跡の時期は弥生時代以降の可能性はある。

その他 (第25図)

表面採集および出土地点不明の資料である。注記に「かんばいB」とあるため、東側調査区の出土遺物と判断した。

1・2は表面採集資料である。1は坏蓋で、つまみを有する。口縁部の一部に歪みが生じている。2は坏である。3・4は出土地点不明資料である。3は壺の底部、4は脚台を有する甕の胴下半部である。時期は1が8世紀代、2が5世紀代で、3・4が弥生時代であると思われる。

トレンチ出土資料 (第26図)

西側調査区と東側調査区のどちらから出土したか不明の資料である。断面が7角形を呈する。外面はケズリを施し、平面に仕上げる。形状から高坏の脚部であると思われる。時期は不明である。

④アモメ遺跡2次4地点の総括

アモメ遺跡2次4地点の調査では、竪穴建物跡が4軒、土坑が7基、井戸跡が1基、溝跡8条が発見された。遺構の多くは東側調査区に位置する。時期は弥生時代中期、弥生時代後期、古墳時代前期、古墳時代後期および古代に属すると思われる。以下に、各遺構の概要を述べた上で、西側調査区と東側調査区全体の遺構の関係性についてまとめる。

竪穴建物跡は西側調査区で3軒、東側調査区で1軒発見された。西側調査区の2号竪穴建物跡は平面図を検討した結果、2軒の建物である可能性があるため、2号西側建物跡と2号東側建物跡として報告した。東側調査区の3号竪穴建物跡は、西側調査区の建物跡と比べて土器が多数出土して

いる。時期は1号竪穴建物跡と3号竪穴建物跡が弥生時代中期で、2号西側建物跡と2号東側建物跡はそれぞれ弥生時代中期もしくは古墳時代（5世紀代）に属すると思われる。

土坑は西側調査区で1基、東側調査区で7基発見された。ほとんどの土坑の性格は不明である。西側調査区の1号土坑からは完形に近い甕が2個体分並んだ状態で出土しているが、意図的な埋置か廃棄かは判断できない。西側調査区1号土坑の時期は弥生時代中期の可能性が高い。東側調査区の1号土坑は焼土の塊が出土することから、付近で火を使った可能性はあるが土坑の性格は不明である。ほぼ完形の小型丸底土器が出土しており、時期は古墳時代（4世紀中頃～5世紀中頃）に属すると思われる。他の土坑については、3号土坑が出土遺物から古墳時代（5世紀代）である可能性があり、4号土坑は3号土坑に切られるため古墳時代（5世紀代）以前に属するものと思われる。2号・5号・6号土坑は出土遺物がなく時期を判断できない。

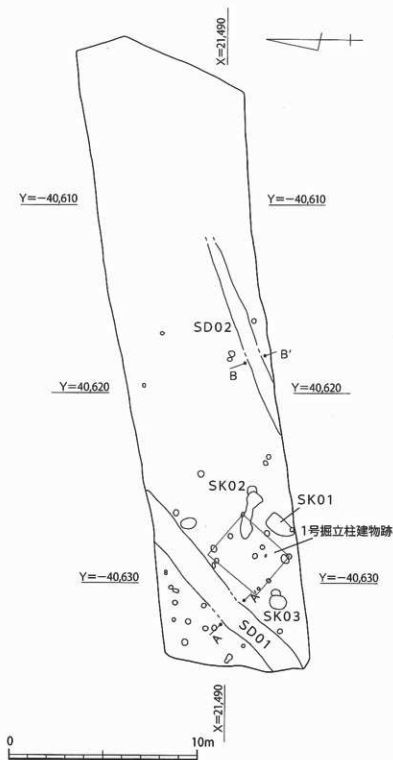
西側調査区の中央付近で発見された1号井戸跡は、概観には出土遺物があったと記載があるが、整理作業中に遺物は確認できなかった。時期は不明であるが弥生時代後期前後の可能性はある。

溝跡は西側調査区で1条、東側調査区で7条発見され、ほとんどが南北方向に延びる。1号・3号溝跡は自然流路の可能性があり、4号・5号・6号・7号溝跡は人為的な溝の可能性はある。3号溝跡は出土遺物の時期から、上層と下層に分かれ、下層は弥生時代後期以降、上層は古墳時代（6世紀）以降と思われる。各溝跡の時期は、7号溝跡が弥生時代中期以降、6号溝跡が弥生時代後期、4号・5号・8号溝跡が弥生時代以降、2号溝跡が古墳時代（7世紀初頭）、1号溝跡が古代（8世紀）に属すると思われる。

各時期の遺構を整理すると、弥生時代中期に属するのが1号竪穴建物跡・2号西側もしくは東側建物跡・3号竪穴建物跡であり、調査区のやや西側と東端に位置する。時期が近い他の遺構には、西側調査区1号土坑が調査区西端に位置する。弥生時代中期以降には7号溝跡が調査区のやや東側に位置する。弥生時代後期以降には3号溝跡下層、6号溝跡が調査区東側に位置する。古墳時代（5世紀代）に属するのが2号西側もしくは東側建物跡であり、調査区のやや西側に位置する。時期が近いものに東側調査区1号土坑・3号土坑がある。古墳時代6世紀～7世紀初頭に3号溝跡上層が調査区東側に、2号溝跡が調査区中央付近にあったと思われる。古代（8世紀代）には調査区西端に1号溝跡が存在したと思われる。

アモメ遺跡2次4地点の出土遺物で特徴的なものについて記述する。まず、1号溝跡から出土した須恵器高台付杯（第10図24）で、内面に車輪文の当て具痕がある。時期は古代（8世紀代）に属すると思われる。次に、3号溝跡から出土した両端部が扁平な把手（第21図25）である。時期は不明である。また、出土地点不明の高坏脚部（第26図）は、断面形が7角形を呈する。時期は不明である。

以上の結果、アモメ遺跡2次4地点は、弥生時代中期から古墳時代にかけての集落跡であると思われる。アモメ遺跡2次4地点の周辺を見ると、当遺跡西側の現在の酒井田集落周辺に弥生時代前期から古墳時代前期にかけての遺跡が存在し、遺構の密度からしても当時の中心地域のひとつであったと思われる。当遺跡はその周辺地域に位置しており、遺構密度はやや低いもののアモメ遺跡1～3地点等の遺跡も含めて現在の柳瀬付近には、弥生時代から古墳時代にかけて継続して集落が営まれたものと思われる。



第27図 長田遺跡遺構配置図 (S = 1/200)

(2) 長田遺跡

①調査の概要

長田遺跡は八女市酒井田字長田地内に位置する。調査面積約270㎡で、平成5年8月24日から10月1日にかけて現地調査が実施された。

出土遺物はほとんど細片であった。

②調査の成果 (第27図)

発掘調査では、ほとんどの遺構が調査区西側で発見されており、概報によると「溝が2条と土坑が3基、その他ビットがみられるのみで、調査区東側は後世の削平のためか攪乱がはげしい。」との記載がある。

また、掘立柱建物跡の可能性のある遺構が1軒確認されている。遺物は少ないが、可能な限り図化し掲載した。

以下、各遺構と遺物について報告する。

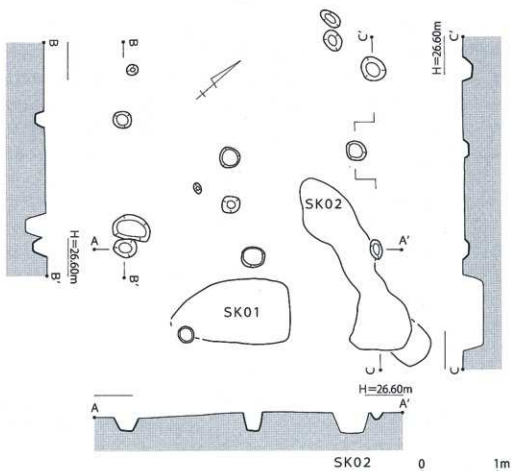
③出土遺構と遺物

掘立柱建物跡

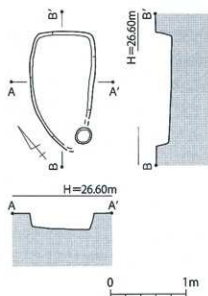
調査図面に掘立柱建物跡の記載はないが、「掘立」とラベルに書かれた出土遺物がある。調査時は建物を認識していたと思われるが、記録が無く位置が特定できないため、図面から柱穴跡を推定し、建物の可能性があるものを1号掘立柱建物跡とした。以下にその建物を報告する。

1号掘立柱建物跡 (第28図)

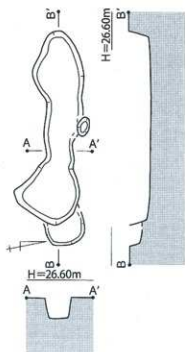
1号掘立柱建物跡は、2間×2間の東西方向約2.5m、南北方向約3.4mの建物であると推定される。1号溝跡の南東に位置し、溝跡と平行するように建つ。建物の範囲内に1号土坑と2号土坑が存在するが、切り合い関係は不明である。報告で示した掘立柱建物跡から出土したかは不明であるが、「掘立」出土遺物に図示可能な遺物は無く、外面にハケメ内面にケズリを施す土師器甕と思



第28図 長田遺跡1号掘立柱建物跡実測図 (S = 1/50)



第29図 長田遺跡SK01実測図
(S = 1/50)



第30図 長田遺跡 SK02 実測図
(S = 1/50)

われる小破片があるのみである。遺物の時期は古墳時代以降と思われるが、この土器片が遺構に伴うものか混入したものであるかは不明である。1号掘立柱建物の時期は、遺物から判断するのは困難であるが、古墳時代以降の可能性はある。

土坑 (SK)

1号土坑 (SK01) : (第 29 図)

1号土坑は長さ約 1.6m、幅約 0.9m で平面形は楕円形を呈し、残存する深さは約 20cm である。1号掘立柱建物跡と重なる位置に存在するが、切り合い関係は不明であり、土坑の性格も不明である。

図化可能な出土遺物は無く、時期は不明である。



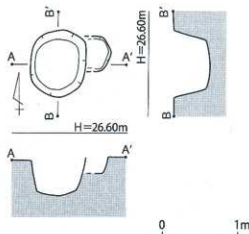
第 31 図 長田遺跡 SK02 出土遺物実測図 (S = 1/4)

2号土坑 (SK02) : (第 30・31 図)

2号土坑は、東西に細長い形状をしている。長さ約 2.6m、幅約 0.9m、残存する深さは 30cm である。1号掘立柱建物跡と重なる場所に位置するが、切り合い関係は不明である。土坑の性格は不明である。

出土遺物を第 31 図に示す。これは、鉢の口縁部で、段を有し、口縁端部はやや内湾する。表面は摩耗している。時期は 4 世紀前半～5 世紀初頭に属すると思われる。

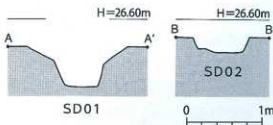
2号土坑の時期を判断するのは困難であるが、出土遺物から 4 世紀前半～5 世紀初頭の可能性がある。



第 32 図 長田遺跡 SK03 実測図 (S = 1/50)

3号土坑 (SK003) : (第 32 図)

3号土坑は長さ 0.9m、幅 0.7m で平面形は円形であり、残存する深さは 50cm である。土坑の性格は不明である。出土遺物は無く、時期は不明である。



溝跡 (SD)

1号溝跡 (SD01) : (第 27 図・第 33 図)

1号溝跡は北東から南西に延びる。長さ 12m 以上、幅 1.5m、残存する深さ約 50cm である。幅が一定であることから、人為的な溝である可能性が高い。図化可能な遺物は無く、遺構の時期は不明である。

2号溝跡 (SD02) : (第 27 図・第 33 図)

2号溝跡は北東から南西に延びる。残存長 10.8m、幅 0.6m、残存する深さは約 20cm である。東側は削平を受けたためか、残存していない。幅が一定であることから、人為的な溝である可能性が高い。出土遺物は無く、時期は不明である。

第 33 図 長田遺跡 SD01・02 実測図 (S = 1/50)

④長田遺跡の総括

長田遺跡では、掘立柱建物跡の可能性のあるもの1軒、土坑3基、溝跡2条のほか複数のビットが発見された。概要にも記したように、ほとんどの遺構が調査区の西側に位置しており、東側は後世の削平を受けたものと思われる。

掘立柱建物跡は調査図面に記録は無いが、「掘立」と書かれた遺物ラベルがあるため、調査時には認識されていたものと思われる。本報告では、掘立柱建物跡と推定される柱穴跡を示し、1号掘立柱建物跡として報告した。今回報告した掘立柱建物跡の柱穴と対応関係は不明であるが、「掘立」出土遺物には古墳時代以降に属すると思われる土器片がみられる。この「掘立」出土の土器片が混入したものである可能性も残るため、掘立柱建物跡の時期特定は困難であるが、古墳時代以降の可能性はある。1号掘立柱建物跡として推定した建物跡は、1号溝跡に平行する位置関係であるため、両者が同時期に存在していた可能性がある。

土坑は、3基あるうちの1号土坑と2号土坑は、1号掘立柱建物跡と重なる位置に存在しているが、先後関係は不明である。遺跡全体の出土遺物がほとんど細片である中で、唯一図化できたのが2号土坑から出土した口縁部に段を有する鉢（第31図）である。時期は古墳時代（4世紀前半～5世紀初頭）に属すると思われる。1号・3号土坑の時期は不明である。

溝跡は2条とも一定の幅で北東から南西に延び、どちらも人為的に掘られた溝である可能性が高い。2号溝跡は削平を受けたためか東側が残存していない。1号・2号溝跡の時期は不明である。

以上の結果、出土遺物が少なく、ほとんどの遺構の時期を特定するのが困難であるが、古墳時代（4世紀前半～5世紀初頭）に属すると思われる土坑と古墳時代以降と思われる掘立柱建物跡とが存在することから、長田遺跡には古墳時代以降の集落の一部が存在していたと思われる。

長田遺跡の周辺遺跡を確認すると、南側と南東側には古墳時代の建物が確認された島田遺跡と松ノ本遺跡A地点が存在し、北側には中世の土坑が確認された長田遺跡2次1地点が存在する。周囲の状況から、当遺跡の南から南東には古墳時代の集落域が広がり、北側には中世の集落域が展開すると思われる。なお、島田遺跡では北西から南東に延びる溝跡、長田遺跡2次1地点では北東から南西に延びる溝跡が見つかっており、長田遺跡の溝跡とつながる可能性がある。

長田遺跡は古墳時代以降の集落であり、北側の中世の集落域と南と南東に広がる古墳時代の集落域のどちらかに属する可能性がある。集落の詳細は不明な点も多いが、今後の近隣での調査成果により判明していくことを期待する。

第1表 アモ×遺跡2次・長田遺跡出土遺物観察表

[illegible]

調査番号	調査地点	地層	色調 (外/内)	散土	調査	寸法 (cm)			備考 (形状、構成等)	実測番号
						口徑	縦径	底面		
第10期	35 アモメ東 S D01	石礫層	灰白	—	—	長さ 6.5	幅 3.7	厚さ 2.7	重さ 113.8 g	R35
第11期	アモメ東 S P01	土礫層	灰白/黄	3mm以下の礫を含む。 片石・石炭・赤色鉄	外周:ヨコナデ・ヘラケツ 内周:ナデ	15.2	10.4	3.5	焼瓦1枚、散瓦 R203と同一層の可能性あり	R24
第14期	1 アモメ東 S B03	赤土層	明黄緑/ 明黄緑	3mm以下の礫を含む。 片石・石炭・赤色鉄	外周:ヨコナデ・ナデ 内周:ヨコナデ	(26.8)	—	2.2	口縁部1/5、散瓦 R204と同一層の可能性あり	R204
第14期	2 アモメ東 S B03	赤土層	明黄緑/ 明黄緑	3.5mm以下の礫を含む。 片石・石炭・赤色鉄	外周:ヨコナデ 内周:ヨコナデ	(29.8)	—	2.0	口縁部1/16、散瓦 R204と同一層の可能性あり	R200
第14期	3 アモメ東 S B03	赤土層	黄/黄	2mm以下の礫を含む。 片石・石炭・赤色鉄	外周:ナデ、ヤギミメ・ヨコナデ 内周:ヨコナデ	(30.0)	—	2.4	口縁部1/4、散瓦	R302
第14期	4 アモメ東 S B03	赤土層	土に白/黄 に白/黄	2mm以下の礫を含む。 片石・石炭・赤色鉄	外周:ヨコナデ・ヤギミメ 内周:ヨコナデ	(29.9)	—	2.1	口縁部1/4、散瓦	R409
第14期	5 アモメ東 S B03	赤土層	黄/黄	4.5mm以下の礫を含む。 片石・石炭・赤色鉄	外周:ヨコナデ・ハケミ 内周:ヨコナデ	(15.0)	—	3.5	口縁部1/4、散瓦	R92
第14期	6 アモメ東 S B03	赤土層	土に白/黄 に白/黄	2mm以下の礫を含む。 片石・石炭・赤色鉄	外周:ヨコナデ・ナデ 内周:ヨコナデ	(28.8)	—	6.75	口縁部1/5、散瓦	R59
第14期	7 アモメ東 S B03	赤土層	土に白/黄 に白/黄	2mm以下の礫を含む。 片石・石炭・赤色鉄	外周:ヨコナデ・ナデ 内周:ヨコナデ	(29.3)	—	0.85	口縁部1/3、散瓦	R216
第14期	8 アモメ東 S B03	赤土層	黄/黄	2mm以下の礫を含む。 片石・石炭・赤色鉄	外周:ヨコナデ・ハケミ 内周:ヨコナデ	(31.4)	—	5.3	口縁部1/4、散瓦	R410
第14期	9 アモメ東 S B03	赤土層	黄/黄	3.5mm以下の礫を含む。 片石・石炭・赤色鉄	外周:ヨコナデ 内周:ヨコナデ・ナデ	(27.8)	—	2.7	口縁部1/6、散瓦	R214
第14期	10 アモメ東 S B03	赤土層	土に白/黄 に白/黄	3mm以下の礫を含む。 片石・石炭・赤色鉄	外周:ヨコナデ 内周:ヨコナデ	—	—	2.3	小片、散瓦 外周に同層あり	R218
第14期	11 アモメ東 S B03	赤土層	土に白/黄 に白/黄	2mm以下の礫を含む。 片石・石炭・赤色鉄	外周:ヨコナデ 内周:ヨコナデ	—	—	2.2	小片、散瓦	R201
第14期	12 アモメ東 S B03	赤土層	黄/黄	2mm以下の礫を含む。 片石・石炭・赤色鉄	外周:ヨコナデ 内周:ヨコナデ	—	—	2.0	小片、散瓦	R402
第14期	13 アモメ東 S B03	赤土層	土に白/黄 に白/黄	3.5mm以下の礫を含む。 片石・石炭・赤色鉄	外周:ヨコナデ 内周:ヨコナデ・ナデ	(26.8)	—	4.6	口縁部1/4、散瓦	R57
第14期	14 アモメ東 S B03	赤土層	黄/黄	3.5mm以下の礫を含む。 片石・石炭・赤色鉄	外周:ヨコナデ・ナデ 内周:ヨコナデ・ナデ	(25.8)	—	4.2	口縁部1/5、散瓦	R303
第14期	15 アモメ東 S B03	赤土層	黄/黄	2mm以下の礫を含む。 片石・石炭・赤色鉄	外周:ヨコナデ 内周:ヨコナデ	(27.8)	—	2.1	口縁部1/4、散瓦	R408
第14期	16 アモメ東 S B03	赤土層	土に白/黄 に白/黄	2mm以下の礫を含む。 片石・石炭・赤色鉄	外周:ヨコナデ 内周:ヨコナデ	(32.4)	—	4.3	口縁部1/16、散瓦	R401
第14期	17 アモメ東 S B03	赤土層	黄/黄	2mm以下の礫を含む。 片石・石炭・赤色鉄	外周:ヨコナデ 内周:ヨコナデ・ナデ	(29.8)	—	3.0	口縁部1/4、散瓦 R201と同一層の可能性あり	R217
第14期	18 アモメ東 S B03	赤土層	黄/黄	1.5mm以下の礫を含む。 片石・石炭・赤色鉄	外周:ヨコナデ・ナデ 内周:ヨコナデ・ナデ	(31.0)	—	6.3	口縁部1/2、散瓦 R217と同一層の可能性あり	R91
第14期	19 アモメ東 S B03	赤土層	土に白/黄 に白/黄	4mm以下の礫を含む。 片石・石炭・石炭・赤色鉄	外周:ヨコナデ・ナデ 内周:ヨコナデ・ナデ	(31.1)	—	5.5	口縁部1/4、散瓦 R203と同一層の可能性あり	R301
第14期	20 アモメ東 S B03	赤土層	土に白/黄 に白/黄	5mm以下の礫を含む。 片石・石炭・赤色鉄	外周:ヨコナデ・ナデ 内周:ヨコナデ・ナデ	(18.0)	—	7.5	口縁部1/4、散瓦 R203と同一層の可能性あり	R90
第14期	21 アモメ東 S B03	赤土層	黄/黄	4mm以下の礫を含む。 片石・石炭・石炭・赤色鉄	外周:ヨコナデ 内周:ヨコナデ	(22.0)	—	2.35	口縁部1/5、散瓦	R58
第14期	22 アモメ東 S B03	赤土層	土に白/黄 に白/黄	2mm以下の礫を含む。 片石・石炭・赤色鉄	外周:ヨコナデ 内周:ヨコナデ・ナデ	(20.0)	—	3.8	口縁部1/8、散瓦	R60
第14期	23 アモメ東 S B03	赤土層	黄緑/黄緑	5mm以下の礫を含む。 片石・石炭・石炭・赤色鉄	外周:ヨコナデ・ナデ 内周:ヨコナデ・ナデ	—	(10.0)	21.6	銅部一断面1/4、散瓦 R203と同一層の可能性あり	R89
第14期	24 アモメ東 S B03	赤土層	黄/黄	1mm以下の礫を含む。 片石・石炭・赤色鉄	外周:ヨコナデ・ナデ 内周:ヨコナデ	—	—	7.65	銅部、散瓦	R202
第14期	25 アモメ東 S B03	赤土層	黄/黄	3mm以下の礫を含む。 片石・石炭・赤色鉄	外周:ナデ 内周:ナデ	—	—	12.1	小片、散瓦	R215
第14期	26 アモメ東 S B03	赤土層	黄緑/黄 に白/黄	3mm以下の礫を含む。 片石・石炭・赤色鉄	外周:ハケミ散ナデ 内周:ナデ	—	(8.1)	3.2	底面1/4、散瓦	R300
第14期	27 アモメ東 S B03	赤土層	黄/黄	2mm以下の礫を含む。 片石・石炭・赤色鉄	外周:ハケミ散ナデ・ヨコナデ 内周:ナデ	—	5.65	9.5	底面、散瓦	R56
第14期	28 アモメ東 S B03	赤土層	土に白/黄 に白/黄	4mm以下の礫を含む。 片石・石炭・赤色鉄	外周:ナデ 内周:ナデ	—	(11.3)	3.15	底面1/8、散瓦	R203
第14期	29 アモメ東 S B03	赤土層	黄/黄	1mm以下の礫を含む。 片石・石炭・赤色鉄	外周:ナデ 内周:ナデ	—	9.0	3.5	底面、散瓦 手底	R94
第14期	30 アモメ東 S B03	赤土層	黄/黄	1mm以下の礫を含む。 片石・石炭・赤色鉄	外周:ナデ 内周:ナデ	—	(8.0)	5.5	底面1/3、散瓦	R411
第14期	31 アモメ東 S B03	赤土層	黄/黄	1mm以下の礫を含む。 片石・石炭・赤色鉄	外周:ナデ 内周:ナデ	—	(14.4)	3.05	底面1/5、散瓦	R93
第15期	アモメ東 S B01	土礫層	土に白/黄 に白/黄	2mm以下の礫を含む。 片石・石炭・赤色鉄	外周:ヨコナデ・ハケミ散ナデ 内周:ヨコナデ・ハケミ散ナデ	(9.4)	—	9.55	底面1/2の断面1/4、散瓦	R109
第17期	1 アモメ東 S B03	土礫層	黄/黄	2mm以下の礫を含む。 片石・石炭・赤色鉄	外周:ナデ 内周:ナデ	(14.0)	—	4.0	口縁部1/4、散瓦	R62
第17期	2 アモメ東 S B03	土礫層	明黄緑/ 明黄緑	2mm以下の礫を含む。 片石・石炭・赤色鉄	外周:ヨコナデ 内周:ヨコナデ	(18.0)	—	4.8	口縁部1/8、散瓦	R53
第17期	3 アモメ東 S B03	土礫層	明黄緑/ 明黄緑	2mm以下の礫を含む。 片石・石炭・赤色鉄	外周:ヨコナデ・ハケミ 内周:ヨコナデ・ハケミ	(16.2)	—	6.3	口縁部1/2、散瓦	R61
第17期	4 アモメ東 S B03	赤土層	土に白/黄 に白/黄	10mm以下の礫を含む。 片石・石炭・赤色鉄	外周:ヨコナデ・ハケミ散ナデ 内周:ナデ	底面 22.0	—	12.0	底面1/4以下、散瓦 R203と同一層の可能性あり	R207
第19期	1 アモメ東 S D02	赤土層	土に白/黄 に白/黄	2mm以下の礫を含む。 片石・石炭・赤色鉄	外周:ヨコナデ・ハケミ散ナデ 内周:ヨコナデ・ハケミ散ナデ	(33.0)	—	5.65	口縁部1/6、散瓦	R40
第19期	2 アモメ東 S D02	赤土層	明黄緑/黄	1mm以下の礫を含む。 片石・石炭・赤色鉄	外周:ヨコナデ・ハケミ 内周:ヨコナデ・ハケミ	(29.0)	—	4.2	口縁部1/8、散瓦	R220
第19期	3 アモメ東 S D02	赤土層	黄/黄	2mm以下の礫を含む。 片石・石炭・赤色鉄	外周:ヨコナデ 内周:ヨコナデ・ハケミ散ナデ	(23.3)	—	4.3	口縁部1/8、散瓦	R305
第19期	4 アモメ東 S D02	赤土層	黄/黄	2mm以下の礫を含む。 片石・石炭・赤色鉄	外周:ヨコナデ 内周:ヨコナデ・ナデ	—	—	2.7	小片、散瓦	R226
第19期	5 アモメ東 S D02	赤土層	明黄緑/ 明黄緑	1mm以下の礫を含む。 片石・石炭・赤色鉄	外周:ヨコナデ・ハケミ散ナデ 内周:ナデ	—	6.25	7.9	底面、散瓦	R43
第19期	6 アモメ東 S D02	赤土層	土に白/黄 に白/黄	2mm以下の礫を含む。 片石・石炭・赤色鉄	外周:ハケミ・ナデ 内周:ナデ	—	4.9	3.9	底面、散瓦	R304
第19期	7 アモメ東 S D02	赤土層	黄/黄	0.5mm以下の礫を含む。 片石・石炭・赤色鉄	外周:ヨコナデ 内周:ヨコナデ	(27.0)	—	2.9	口縁部1/6、散瓦	R39
第19期	8 アモメ東 S D02	赤土層	黄/黄	0.5mm以下の礫を含む。 片石・石炭・赤色鉄	外周:ヨコナデ 内周:ヨコナデ	(19.7)	—	3.2	口縁部1/8、散瓦	R221
第19期	9 アモメ東 S D02	赤土層	黄/黄	2mm以下の礫を含む。 片石・石炭・赤色鉄	外周:ハケミ散ナデ 内周:ハケミ散ナデ	(14.0)	—	3.7	口縁部1/8、散瓦	R44
第19期	10 アモメ東 S D02	赤土層	黄/黄	2mm以下の礫を含む。 片石・石炭・赤色鉄	外周:ヨコナデ・ハケミ 内周:ヨコナデ・ハケミ	長さ 5.9	幅 3.8	厚さ 3.8	散瓦、底面欠く	R42
第19期	11 アモメ東 S D02	赤土層	黄/黄	2mm以下の礫を含む。 片石・石炭・赤色鉄	外周:ハケミ散ナデ・ハケミ散ナデ 内周:ハケミ散ナデ	(11.0)	—	2.65	口縁部1/4、散瓦	R103
第19期	12 アモメ東 S D02	赤土層	土に白/黄 に白/黄	1.5mm以下の礫を含む。 片石・石炭・赤色鉄	外周:ハケミ散ナデ・ハケミ散ナデ 内周:ハケミ散ナデ	—	—	2.3	口縁部1/8、散瓦	R41
第19期	13 アモメ東 S D02	赤土層	黄/黄	1mm以下の礫を含む。 片石・石炭・赤色鉄	外周:ヨコナデ・ナデ 内周:ヨコナデ	(24.0)	—	2.1	口縁部1/6、散瓦	R104
第19期	14 アモメ東 S D02	赤土層	黄/黄	1.5mm以下の礫を含む。 片石・石炭・赤色鉄	外周:ナデ 内周:ナデ	—	—	3.1	小片、散瓦	R105

編制番号	出土地点	部形	包頭 (外/内)	軸寸	調製	寸法 (mm)			備考 (現存、消失等)	実測番号
						口徑	底徑	高さ		
第19期 15	アモメ東 S 5002	泡盛器 底	布底/灰	3mm以下の破を含む。 片割、石割、長割	外底：唇子口から 内底：下口縁(内底)	—	—	2.8	小片、散見	R106
第20期 1	アモメ東 S 5003	先土土器 底	先土土器 底	2mm以下の破を含む。 片割、布底	外底：ヨコナデ、木割 内底：ヨコナデ、ナデ	024.0	—	4.3	口縁部1/7、散見 内底面あり	R231
第20期 2	アモメ東 S 5003	先土土器 底	先土土器 底	2mm以下の破を含む。 片割	外底：ヨコナデ、ハク後ナデ 内底：ヨコナデ、ナデ	025.4	—	4.0	口縁部1/8、散見	R416
第20期 3	アモメ東 S 5003	先土土器 底	先土土器 底	1.5mm以下の破を含む。 片割	外底：ヨコナデ、木割 内底：ヨコナデ、ナデ	030.0	—	5.3	口縁部1/6、散見	R222
第20期 4	アモメ東 S 5003	先土土器 底	先土土器 底	2.5mm以下の破を含む。 片割、石割、布底	外底：ヨコナデ、ハク後ナデ 内底：ヨコナデ、ハク後ナデ	026.0	—	7.45	口縁部1/6、散見	R71
第20期 5	アモメ東 S 5003	先土土器 底	先土土器 底	1.5mm以下の破を含む。 片割	外底：ヨコナデ、ナデ 内底：ヨコナデ、ナデ	028.0	—	4.3	口縁部1/8、散見	R228
第20期 6	アモメ東 S 5003	先土土器 底	先土土器 底	2mm以下の破を含む。 片割、石割、布底	外底：ヨコナデ 内底：ヨコナデ	030.0	—	1.9	口縁部1/8、散見	R309
第20期 7	アモメ東 S 5003	先土土器 底	先土土器 底	2mm以下の破を含む。 片割	外底：ヨコナデ、ハクメ 内底：ヨコナデ、ハク後ナデ	017.0	—	6.95	口縁部1/5、散見	R83
第20期 8	アモメ東 S 5003	先土土器 底	先土土器 底	2mm以下の破を含む。 片割、石割	外底：ヨコナデ、ナデ 内底：ヨコナデ、ナデ	025.2	—	10.23	口縁部1/4、散見 内底面あり(内底は断面まで)	R73
第20期 9	アモメ東 S 5003	先土土器 底	先土土器 底	1.5mm以下の破を含む。 片割、石割	外底：ヨコナデ 内底：不明	30.8	—	15.1	口縁部1個、散見 内底面あり	R50①
第20期 10	アモメ東 S 5003	先土土器 底	先土土器 底	1.5mm以下の破を含む。 片割	外底：不明 内底：不明	—	6.1	17.3	断面下部～底面、散見 内底面あり	R50②
第20期 11	アモメ東 S 5003	先土土器 底	先土土器 底	2mm以下の破を含む。 片割、石割	外底：ヨコナデ 内底：ヨコナデ	—	—	1.8	口縁部1/4、散見 R231と同一の可能性	R311
第20期 12	アモメ東 S 5003	先土土器 底	先土土器 底	3mm以下の破を含む。 片割、石割	外底：ヨコナデ 内底：ヨコナデ	—	—	2.0	小片、散見	R223
第20期 13	アモメ東 S 5003	先土土器 底	先土土器 底	1mm以下の破を含む。 片割、石割	外底：ヨコナデ 内底：ヨコナデ	—	—	1.45	小片、散見	R310
第20期 14	アモメ東 S 5003	先土土器 底	先土土器 底	3mm以下の破を含む。 片割、石割、布底	外底：ヨコナデ 内底：ヨコナデ	—	—	2.15	小片、散見	R307
第20期 15	アモメ東 S 5003	先土土器 底	先土土器 底	2mm以下の破を含む。 片割	外底：ヨコナデ 内底：ヨコナデ	—	—	2.35	小片、散見	R206
第20期 16	アモメ東 S 5003	先土土器 底	先土土器 底	2mm以下の破を含む。 片割、石割、布底	外底：ヨコナデ 内底：ヨコナデ	—	—	2.15	小片、散見	R308
第20期 17	アモメ東 S 5003	先土土器 底	先土土器 底	3mm以下の破を含む。 片割、石割、布底	外底：ヨコナデ、ハク後ナデ 内底：ヨコナデ	—	—	3.1	小片、散見	R230
第20期 18	アモメ東 S 5003	先土土器 底	先土土器 底	4mm以下の破を含む。 片割、石割、布底	外底：ヨコナデ、ハクメ 内底：ヨコナデ	—	—	2.25	小片、散見	R314
第20期 19	アモメ東 S 5003	先土土器 底	先土土器 底	3mm以下の破を含む。 片割、石割、布底	外底：ヨコナデ、ハクメ 内底：ヨコナデ、ハク後ナデ	—	—	5.35	小片、散見	R229
第20期 20	アモメ東 S 5003	先土土器 底	先土土器 底	4mm以下の破を含む。 片割、石割、布底	外底：不明 内底：不明	23.65	—	16.8	口縁部1個、散見	R86①
第20期 21	アモメ東 S 5003	先土土器 底	先土土器 底	4mm以下の破を含む。 片割、石割、布底	外底：不明 内底：不明	—	0.40	6.3	断面下部～底面、散見	R86②
第20期 22	アモメ東 S 5003	先土土器 底	先土土器 底	1mm以下の破を含む。 片割、石割、布底	外底：ヨコナデ、ナデ 内底：ヨコナデ、ナデ	—	11.68	4.8	1/6、散見	R72
第20期 23	アモメ東 S 5003	先土土器 底	先土土器 底	2.5mm以下の破を含む。 片割、石割、布底	外底：ヨコナデ 内底：ナデ	—	—	6.7	小片、散見	R414
第20期 24	アモメ東 S 5003	先土土器 底	先土土器 底	2mm以下の破を含む。 片割、石割	外底：ヨコナデ、ハク後ナデ 内底：ヨコナデ、ハク後ナデ	026.0	—	7.4	口縁部1/4、散見	R87
第20期 25	アモメ東 S 5003	先土土器 底	先土土器 底	4mm以下の破を含む。 片割、石割、布底	外底：ヨコナデ、ハクメ 内底：ヨコナデ、ハク後ナデ	025.0	—	9.6	口縁部1/5、散見	R70
第20期 26	アモメ東 S 5003	先土土器 底	先土土器 底	3mm以下の破を含む。 片割、石割、布底	外底：ナデ 内底：ナデ	—	6.6	3.1	底面、散見	R415
第20期 27	アモメ東 S 5003	先土土器 底	先土土器 底	2mm以下の破を含む。 片割、石割、布底	外底：ハクメ後ナデ 内底：ハクメ	—	6.6	2.6	底面、散見	R313
第20期 28	アモメ東 S 5003	先土土器 底	先土土器 底	8mm以下の破を含む。 片割、石割、布底	外底：ハクメ後ナデ、ナデ 内底：ハクメ	—	8.8	4.5	底面、散見	R77
第20期 29	アモメ東 S 5003	先土土器 底	先土土器 底	2mm以下の破を含む。 片割、石割、布底	外底：ハクメ後ナデ、ナデ 内底：ナデ	—	6.3	4.35	底面、散見	R316
第20期 30	アモメ東 S 5003	先土土器 底	先土土器 底	2mm以下の破を含む。 片割、石割、布底	外底：ハクメ 内底：ナデ	—	5.0	5.4	底面、散見	R412
第20期 31	アモメ東 S 5003	先土土器 底	先土土器 底	2mm以下の破を含む。 片割	外底：ハクメ、ヨコナデ、ナデ 内底：ナデ	—	0.80	4.5	底面、散見	R227
第20期 32	アモメ東 S 5003	先土土器 底	先土土器 底	2mm以下の破を含む。 片割	外底：ハクメ、ヨコナデ、ナデ 内底：ナデ	—	5.1	6.3	底面、散見	R315
第20期 33	アモメ東 S 5003	先土土器 底	先土土器 底	2mm以下の破を含む。 片割	外底：ハクメ、ヨコナデ、ナデ 内底：ナデ	—	0.75	7.4	底面下部～底面、散見	R224
第20期 34	アモメ東 S 5003	先土土器 底	先土土器 底	2mm以下の破を含む。 片割	外底：ナデ 内底：ナデ	—	6.5	7.7	底面、散見	R69
第20期 35	アモメ東 S 5003	先土土器 底	先土土器 底	2mm以下の破を含む。 片割	外底：ハクメ、ナデ 内底：ナデ	—	6.45	3.6	底面、散見	R225
第20期 36	アモメ東 S 5003	先土土器 底	先土土器 底	4mm以下の破を含む。 片割、石割、布底	外底：ハクメ後ナデ、ナデ 内底：ヨコナデ、ナデ	—	15.08	5.2	底面1/2、散見	R312
第20期 37	アモメ東 S 5003	先土土器 底	先土土器 底	4mm以下の破を含む。 片割、石割、布底	外底：ナデ、ハクメ後ナデ、ヨコナデ 内底：ハクメ後ナデ、ナデ	—	18.2	5.1	断面1/2、散見	R88
第20期 38	アモメ東 S 5003	先土土器 底	先土土器 底	5mm以下の破を含む。 片割、石割、布底	外底：ヨコナデ、ハクメ後ナデ、ナデ 内底：ヨコナデ、ハクメ後ナデ	—	0.82	5.8	断面1/2、散見	R108
第21期 1	アモメ東 S 5003	先土土器 底	先土土器 底	2mm以下の破を含む。 片割、石割	外底：ヨコナデ、ナデ 内底：ヨコナデ、ナデ	09.4	—	10.3	口縁部1個、散見	R85
第21期 2	アモメ東 S 5003	先土土器 底	先土土器 底	3mm以下の破を含む。 片割、石割、布底	外底：ヨコナデ、ナデ 内底：ヨコナデ、ナデ	11.22	—	15.2	口縁部1個、散見	R87
第21期 3	アモメ東 S 5003	先土土器 底	先土土器 底	1mm以下の破を含む。 片割、石割、布底	外底：ヨコナデ、ナデ 内底：ヨコナデ、ナデ	11.22	—	14.2	口縁部1個、散見	R65
第21期 4	アモメ東 S 5003	先土土器 底	先土土器 底	1mm以下の破を含む。 片割、石割、布底	外底：ヨコナデ、ナデ 内底：ヨコナデ、ナデ	11.22	—	4.2	口縁部1/4、散見	R80
第21期 5	アモメ東 S 5003	先土土器 底	先土土器 底	2mm以下の破を含む。 片割	外底：ヨコナデ、ハクメ後ナデ、ナデ 内底：ヨコナデ、ハクメ後ナデ	13.65	—	13.1	3/4、散見	R47
第21期 6	アモメ東 S 5003	先土土器 底	先土土器 底	3mm以下の破を含む。 片割、石割、布底	外底：ナデ、ハクメ後ナデ、ハクメ 内底：ナデ、ハクメ後ナデ	14.5	—	14.4	3/4、散見	R45
第21期 7	アモメ東 S 5003	先土土器 底	先土土器 底	1mm以下の破を含む。 片割、石割、布底	外底：ヨコナデ、ナデ、ハクメ 内底：ヨコナデ、ナデ	13.38	9.0	13.7	口縁部1個、散見	R84
第21期 8	アモメ東 S 5003	先土土器 底	先土土器 底	3mm以下の破を含む。 片割、石割、布底	外底：ハクメ、ハクメ後ナデ 内底：ハクメ、ハクメ後ナデ	—	—	7.6	断面1/6、散見	R49
第21期 9	アモメ東 S 5003	先土土器 底	先土土器 底	2.5mm以下の破を含む。 片割、石割、布底	外底：ヨコナデ、ナデ 内底：ヨコナデ、ナデ	9.5	4.0	5.9	4/5、散見	R46
第21期 10	アモメ東 S 5003	先土土器 底	先土土器 底	4.5mm以下の破を含む。 片割、石割、布底	外底：ヨコナデ、ナデ 内底：ハクメ後ナデ	9.2	—	6.8	3/4、散見 口縁部1個、散見	R75
第21期 11	アモメ東 S 5003	先土土器 底	先土土器 底	1.5mm以下の破を含む。 片割、石割、布底	外底：ヨコナデ、ナデ 内底：ヨコナデ、ナデ	10.1	45.58	6.8	3/4、散見	R76
第21期 12	アモメ東 S 5003	先土土器 底	先土土器 底	0.5mm以下の破を含む。 片割、石割	外底：ナデ、ヨコナデ後ナデ 内底：ハクメ後ナデ	10.3	4.5	5.7	4/5、散見	R74

図 版

※写真キャプションのアモメ遺跡2次西は、アモメ遺跡2次4地点西側調査区
アモメ遺跡2次東は、アモメ遺跡2次4地点東側調査区を表す。

図版 1



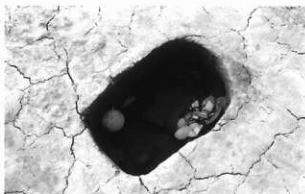
(1) アモメ遺跡 2次4地点西側調査区全景写真
(北東より)



(2) アモメ遺跡 2次4地点 SB01 (北西より)



(3) アモメ遺跡 2次4地点 SB02 (南より)



(4) アモメ遺跡 2次4地点西側調査区 SK01
(北東より)



(5) アモメ遺跡 2次4地点 SE01 (方角不明)



(6) アモメ遺跡 2次4地点東側調査区全景写真
(北西より)



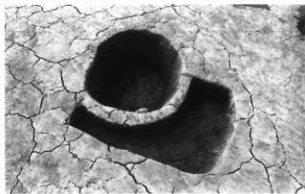
(7) アモメ遺跡 2次4地点東側調査区 SK01 (北西より)



(8) アモメ遺跡 2次4地点 SK02 (方角不明)



(1) アモメ遺跡 2次4地点 SB03 (北西より)



(2) アモメ遺跡 2次4地点 SK03・04 (北より)



(3) アモメ遺跡 2次4地点 SD02 (北より)



(4) アモメ遺跡 2次4地点 SD03 (南より)



(5) アモメ遺跡 2次4地点 SD04・05・08
(南より)

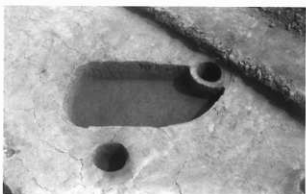
図版 3



(1) 長田遺跡全景写真 (南西より)



(2) 長田遺跡 1号掘立柱建物跡・SK01・SK02
(北東より)



(3) 長田遺跡 SK01 (北西より)



(4) 長田遺跡 SK03 (東より)



(5) 長田遺跡 SD01 (北西より)



(6) 長田遺跡 SD02 (西より)



(1) アモメ 2 次西 SB01 出土遺物 (第 5 図 1)



(2) アモメ 2 次西 SB01 出土遺物 (第 5 図 2)



(3) アモメ 2 次西 SB01 出土遺物 (第 5 図 3)



(4) アモメ 2 次西 SB01 出土遺物 (第 5 図 4)



(5) アモメ 2 次西 SB01 出土遺物 (第 5 図 5)



(6) アモメ 2 次西 SB01 出土遺物 (第 5 図 6)



(7) アモメ 2 次西 SB01 出土遺物 (第 5 図 7)



(8) アモメ 2 次西 SB01 出土遺物 (第 5 図 7)

図版 5



(1) アモメ 2次西 SB01 出土遺物 (第5図8)



(2) アモメ 2次西 SB02 出土遺物 (第7図1)



(3) アモメ 2次西 SB02 出土遺物 (第7図2)



(4) アモメ 2次西 SB02 出土遺物 (第7図3)



(5) アモメ 2次西 SK01 出土遺物 (第8図1)



(6) アモメ 2次西 SK01 出土遺物 (第8図2)



(7) アモメ 2次西 SK01 出土遺物 (第8図3)



(8) アモメ 2次西 SK01 出土遺物 (第8図4)



(1) アモメ 2 次西 SK01 出土遺物 (第 8 図 5)



(2) アモメ 2 次西 SD01 出土遺物 (第 10 図 1)



(3) アモメ 2 次西 SD01 出土遺物 (第 10 図 2)



(4) アモメ 2 次西 SD01 出土遺物 (第 10 図 3)



(5) アモメ 2 次西 SD01 出土遺物 (第 10 図 4)



(6) アモメ 2 次西 SD01 出土遺物 (第 10 図 5)



(7) アモメ 2 次西 SD01 出土遺物 (第 10 図 6)



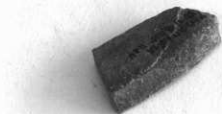
(8) アモメ 2 次西 SD01 出土遺物 (第 10 図 7)



(1) アモメ 2 次西 SD01 出土遺物 (第 10 図 8)



(2) アモメ 2 次西 SD01 出土遺物 (第 10 図 9)



(3) アモメ 2 次西 SD01 出土遺物 (第 10 図 10)



(4) アモメ 2 次西 SD01 出土遺物 (第 10 図 11)



(5) アモメ 2 次西 SD01 出土遺物 (第 10 図 12)



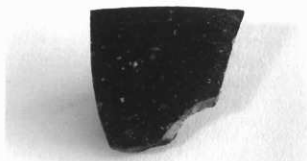
(6) アモメ 2 次西 SD01 出土遺物 (第 10 図 13)



(7) アモメ 2 次西 SD01 出土遺物 (第 10 図 14)



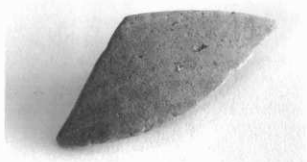
(8) アモメ 2 次西 SD01 出土遺物 (第 10 図 15)



(1) アモメ 2 次西 SD01 出土遺物 (第 10 図 16)



(2) アモメ 2 次西 SD01 出土遺物 (第 10 図 17)



(3) アモメ 2 次西 SD01 出土遺物 (第 10 図 18)



(4) アモメ 2 次西 SD01 出土遺物 (第 10 図 19)



(5) アモメ 2 次西 SD01 出土遺物 (第 10 図 20)



(6) アモメ 2 次西 SD01 出土遺物 (第 10 図 21)



(7) アモメ 2 次西 SD01 出土遺物 (第 10 図 22)



(8) アモメ 2 次西 SD01 出土遺物 (第 10 図 23)

図版 9



(1) アモメ 2 次西 SD01 出土遺物 (第 10 図 24)



(2) アモメ 2 次西 SD01 出土遺物 (第 10 図 25)



(3) アモメ 2 次西 SD01 出土遺物 (第 10 図 26)



(4) アモメ 2 次西 SD01 出土遺物 (第 10 図 27)



(5) アモメ 2 次西 SD01 出土遺物 (第 10 図 28)



(6) アモメ 2 次西 SD01 出土遺物 (第 10 図 29)



(7) アモメ 2 次西 SD01 出土遺物 (第 10 図 30)



(8) アモメ 2 次西 SD01 出土遺物 (第 10 図 31)



(1) アモメ 2 次西 SD01 出土遺物 (第 10 図 32)



(2) アモメ 2 次西 SD01 出土遺物 (第 10 図 33)



(3) アモメ 2 次西 SD01 出土遺物 (第 10 図 34)



(4) アモメ 2 次西 SD01 出土遺物 (第 10 図 35)



(5) アモメ 2 次西 SP01 出土遺物 (第 11 図)



(6) アモメ 2 次東 SB03 出土遺物 (第 14 図 1)



(7) アモメ 2 次東 SB03 出土遺物 (第 14 図 2)



(8) アモメ 2 次東 SB03 出土遺物 (第 14 図 3)



(1) アモメ 2 次東 SB03 出土遺物 (第 14 図 4)



(2) アモメ 2 次東 SB03 出土遺物 (第 14 図 5)



(3) アモメ 2 次東 SB03 出土遺物 (第 14 図 6)



(4) アモメ 2 次東 SB03 出土遺物 (第 14 図 7)



(5) アモメ 2 次東 SB03 出土遺物 (第 14 図 8)



(6) アモメ 2 次東 SB03 出土遺物 (第 14 図 9)



(7) アモメ 2 次東 SB03 出土遺物 (第 14 図 10)



(8) アモメ 2 次東 SB03 出土遺物 (第 14 図 11)



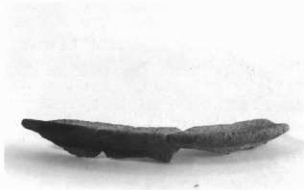
(1) アモメ 2 次東 SB03 出土遺物 (第 14 図 12)



(2) アモメ 2 次東 SB03 出土遺物 (第 14 図 13)



(3) アモメ 2 次東 SB03 出土遺物 (第 14 図 14)



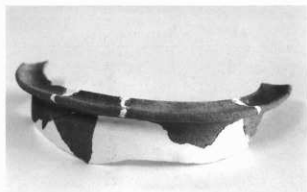
(4) アモメ 2 次東 SB03 出土遺物 (第 14 図 15)



(5) アモメ 2 次東 SB03 出土遺物 (第 14 図 16)



(6) アモメ 2 次東 SB03 出土遺物 (第 14 図 17)



(7) アモメ 2 次東 SB03 出土遺物 (第 14 図 18)



(8) アモメ 2 次東 SB03 出土遺物 (第 14 図 19)



(1) アモメ 2次東 SB03 出土遺物 (第 14 図 20)



(2) アモメ 2次東 SB03 出土遺物 (第 14 図 21)



(3) アモメ 2次東 SB03 出土遺物 (第 14 図 22)



(4) アモメ 2次東 SB03 出土遺物 (第 14 図 23)



(5) アモメ 2次東 SB03 出土遺物 (第 14 図 24)



(6) アモメ 2次東 SB03 出土遺物 (第 14 図 25)



(7) アモメ 2次東 SB03 出土遺物 (第 14 図 26)



(8) アモメ 2次東 SB03 出土遺物 (第 14 図 27)



(1) アモメ 2 次東 SB03 出土遺物 (第 14 図 28)



(2) アモメ 2 次東 SB03 出土遺物 (第 14 図 29)



(3) アモメ 2 次東 SB03 出土遺物 (第 14 図 30)



(4) アモメ 2 次東 SB03 出土遺物 (第 14 図 31)



(5) アモメ 2 次東 SK01 出土遺物 (第 15 図)



(6) アモメ 2 次東 SK03 出土遺物 (第 17 図 1)



(7) アモメ 2 次東 SK03 出土遺物 (第 17 図 2)



(8) アモメ 2 次東 SK03 出土遺物 (第 17 図 3)

図版 15



(1) アモメ 2 次東 SK03 出土遺物 (第 17 図 4)



(2) アモメ 2 次東 SD02 出土遺物 (第 19 図 1)



(3) アモメ 2 次東 SD02 出土遺物 (第 19 図 2)



(4) アモメ 2 次東 SD02 出土遺物 (第 19 図 3)



(5) アモメ 2 次東 SD02 出土遺物 (第 19 図 4)



(6) アモメ 2 次東 SD02 出土遺物 (第 19 図 5)



(7) アモメ 2 次東 SD02 出土遺物 (第 19 図 6)



(8) アモメ 2 次東 SD02 出土遺物 (第 19 図 7)



(1) アモメ 2 次東 SD02 出土遺物 (第 19 図 8)



(2) アモメ 2 次東 SD02 出土遺物 (第 19 図 9)



(3) アモメ 2 次東 SD02 出土遺物 (第 19 図 10)



(4) アモメ 2 次東 SD02 出土遺物 (第 19 図 11)



(5) アモメ 2 次東 SD02 出土遺物 (第 19 図 12)



(6) アモメ 2 次東 SD02 出土遺物 (第 19 図 13)



(7) アモメ 2 次東 SD02 出土遺物 (第 19 図 14)



(8) アモメ 2 次東 SD02 出土遺物 (第 19 図 15)



(1) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 20 図 1)



(2) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 20 図 2)



(3) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 20 図 3)



(4) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 20 図 4)



(5) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 20 図 5)



(6) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 20 図 6)



(7) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 20 図 7)



(8) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 20 図 8)



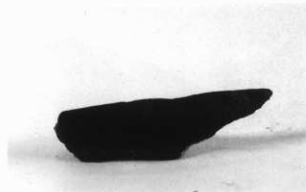
(1) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 20 図 9)



(2) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 20 図 9)



(3) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 20 図 10)



(4) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 20 図 11)



(5) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 20 図 12)



(6) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 20 図 13)



(7) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 20 図 14)



(8) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 20 図 15)



(1) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 20 図 16)



(2) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 20 図 17)



(3) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 20 図 18)



(4) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 20 図 19)



(5) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 20 図 20)



(6) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 20 図 21)



(7) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 20 図 22)



(1) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 20 図 23)



(2) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 20 図 24)



(3) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 20 図 25)



(4) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 20 図 26)



(5) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 20 図 27)



(6) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 20 図 28)



(7) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 20 図 29)



(8) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 20 図 30)



(1) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 20 図 31)



(2) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 20 図 32)



(3) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 20 図 33)



(4) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 20 図 34)



(5) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 20 図 35)



(6) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 20 図 36)



(7) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 21 図 1)



(8) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 21 図 2)



(1) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 21 図 3)



(2) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 21 図 4)



(3) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 21 図 5)



(4) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 21 図 6)



(5) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 21 図 7)



(6) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 21 図 8)



(7) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 21 図 9)



(8) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 21 図 10)



(1) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 21 図 11)



(2) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 21 図 12)



(3) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 21 図 13)



(4) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 21 図 14)



(5) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 21 図 15)



(6) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 21 図 16)



(7) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 21 図 17)



(8) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 21 図 18)



(1) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 21 図 19)



(2) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 21 図 20)



(3) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 21 図 21)



(4) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 21 図 22)



(5) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 21 図 23)



(6) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 21 図 24)



(7) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 21 図 25)



(8) アモメ 2 次東 SD03 出土遺物 (第 21 図 26)



(1) アモメ 2 次東 SD05 出土遺物 (第 22 図)



(2) アモメ 2 次東 SD06 出土遺物 (第 23 図 1)



(3) アモメ 2 次東 SD06 出土遺物 (第 23 図 2)



(4) アモメ 2 次東 SD06 出土遺物 (第 23 図 3)



(5) アモメ 2 次東 SD06 出土遺物 (第 23 図 4)



(6) アモメ 2 次東 SD06 出土遺物 (第 23 図 5)



(7) アモメ 2 次東 SD06 出土遺物 (第 23 図 6)



(8) アモメ 2 次東 SD06 出土遺物 (第 23 図 7)



(1) アモメ 2 次東 SD06 出土遺物 (第 23 図 8)



(2) アモメ 2 次東 SD06 出土遺物 (第 23 図 9)



(3) アモメ 2 次東 SD06 出土遺物 (第 23 図 10)



(4) アモメ 2 次東 SD06 出土遺物 (第 23 図 11)



(5) アモメ 2 次東 SD06 出土遺物 (第 23 図 12)



(6) アモメ 2 次東 SD06 出土遺物 (第 23 図 13)



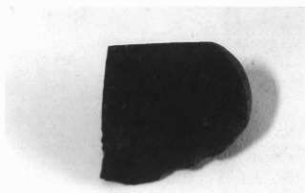
(7) アモメ 2 次東 SD07 出土遺物 (第 24 図 1)



(8) アモメ 2 次東 SD07 出土遺物 (第 24 図 2)



(1) アモメ 2 次東 SD07 出土遺物 (第 24 図 3)



(2) アモメ 2 次東 SD07 出土遺物 (第 24 図 4)



(3) アモメ 2 次東表面採集遺物 (第 25 図 1)



(4) アモメ 2 次東表面採集遺物 (第 25 図 2)



(5) アモメ 2 次東出土地点不明遺物 (第 25 図 3)



(6) アモメ 2 次東出土地点不明遺物 (第 25 図 4)



(7) アモメ 2 次出土地点不明遺物 (第 26 図 1)



(8) 長田遺跡 SK02 出土遺物 (第 31 図 1)

報告書抄録

ふりがな	やめしないいせきぐん20							
書名	八女市内遺跡群20							
副書名	福岡県八女市柳瀬・酒井田所在遺跡の発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	八女市文化財調査報告書							
シリーズ号	第129集							
編著者名	甲斐 郁 (かい ふみ)							
編集機関	八女市教育委員会							
所在地	〒834-8585 福岡県八女市本町647 TEL. 0943-23-1982 FAX. 0943-24-4331							
発行年月日	西暦 2021 (令和3) 年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
あもめせき アモメ遺跡 2次調査4地点 (柳瀬遺跡群)	ふくおがけんやめし 福岡県八女市 やめあざあもめ 柳瀬字アモメ	402109	406013-09	33° 11' 38"	130° 33' 41"	19940927 ～ 19941108	約 1,200 m ²	園地整備 (かんがい 排水路)
ながたせき 長田遺跡第1次調査 (酒井田遺跡群)	ふくおがけんやめし 福岡県八女市 さかいとあざながた 酒井田字長田	402109	406005-09	33° 11' 47"	130° 33' 42"	19940824 ～ 19941001	約 270 m ²	園地整備 (かんがい 排水路)
所収遺跡	種 別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
アモメ遺跡 2次調査4地点 (柳瀬遺跡群)	集 落 跡	弥生時代 古墳時代 古代		竪穴建物跡・土坑・井戸 跡・溝跡		弥生土器 土師器・須恵器 石器・土製品		
長田遺跡第1次調査 (酒井田遺跡群)	集 落 跡	古墳時代		掘立柱建物跡・土坑・溝跡		土師器		
要 約	八女市南部第2地区県営園地整備事業に伴い発掘調査を実施した遺跡のうち、アモメ遺跡2次調査4地点と長田遺跡第1次調査に関する報告である。 アモメ遺跡2次調査4地点では、弥生時代中期から古墳時代にかけての竪穴建物跡、土坑、井戸と、弥生時代から古代にかけての溝跡が発見され、弥生時代中期から古墳時代にかけての集落跡であると思われる。出土遺物のうち特徴的なものには、内面に車輪文の当て具痕がある須恵器杯、両端部が扁平な把手、断面形が7角形である高坏脚碗がある。アモメ遺跡2次4地点の周辺には、北西部に弥生時代前期から古墳時代前期にかけての遺跡が集中し、本遺跡周辺はその周辺地域に位置していたものと思われる。 長田遺跡第1次調査では、掘立柱建物跡と思われる柱穴、土坑、溝跡が発見された。出土遺物の大半が銅片であるが、出土品のうち土師器が古墳時代（4世紀前半～5世紀初葉）に属すると思われる。長田遺跡周辺には古墳時代から中世にかけての集落跡が存在する。本遺跡はそれらの集落の一部で、古墳時代以降の集落跡の可能性はある。							

※座標は世界測地系による。国土地理院ホームページの地図検索システムより得たものであり、基準点測量によって得た値ではない。

八女市内遺跡群20

八女市文化財調査報告書

第129集

令和3年3月31日

発行 八女市教育委員会

八女市本町647

印刷 (株) 東兄弟

八女市新橋院563